ヨンケル・フォン・ランゲック著『瑞穂草　第二部　雑学の部』大日本　その地理的スケッチ（2）

熊　谷　知　実

京都府立医科大学医学部医学科第二外国語教室　非常勤講師

抄録

本稿は、1872 年に開業した京都療病院（現在の京都府立医科大学）の初代医学教師フェルディナント・アーダルベルト・ヨンケル・フォン・ランゲック（1928-1901 頃）が上梓した日本論『瑞穂草』[1] の一部を訳出したものである。ヨンケルはお雇い外国人医師として 3 年半在職している間に、診療や教育、新病院建設の設計等に関わる傍ら、私生活では日本の古典文学や民間伝承を蒐集し、日本各地の名所旧跡を旅してまわった。任期を終えて欧州に戻ったあとには、日本の見聞や蒐集した物語を数冊の書籍に分けて出版した。最初に出版した日本に関する総論が、この『瑞穂草』なのである。この本は 1200 頁を越える大著で、第一部では「忠臣蔵」について、第二部と第三部の「雑学の部」では、文学、地理、歴史、宗教、風俗習慣といった様々な観点から、当時の日本及び日本人についての考察が綴られている。本稿は第二部の「大日本」より、日本の地理的特徴が語られた後半部を訳出した。火山を中心とした山岳、河川、日本各都市の状況が、ここには詳細に記述されている。なお「大日本」前半部は、日本近海や五畿七道について述べられている。

山岳

日本は山岳国で、休火山や活火山が数多く存在している。とりわけ重要な山の多くが〈本土〉島に集中していることから、〈本土〉島のことを火口がたくさんついた一塊の火山と呼んでも差しつかえないであろう。

この島の三分の二は山に覆われているのだが、これらの山は中国南東部にある山岳体系から連続している。安南（北緯 12 度、東経 108 度）の国境を発して、南西から北東方向に舟山島（北緯 30 度、東経 122 度）まで平行して伸びていき、〈九州〉につながって、東西に延びている連峰と交わる。その連峰の西側は南の〈琉球〉諸島と北の〈本土〉の〈長門〉に向かう主要連峰に分かれ、東側は分岐して〈四国〉や〈紀伊〉に続いて

いく連峰と交わり、山塊となってさらに分岐していく。山塊はまずは東西方向に伸び、〈信濃〉（北緯 36 度、東経 134 度）からは巨大な山岳となって北へ連なり、〈本土〉の縦軸を形成しながら、〈蝦夷〉で二方向に分岐するのである。その一方はほぼ平坦な北の樺太へ、もう一方は北東の千島列島へとつながっていく。

日本の地質学研究の大部分は、まだ不十分である。日本国内の知識が不足していて、山岳学に関する詳細な報告がまだない。わずかに知られているのが、欧州または米国で専門教育をうけた少数の旅行者の個人観察記録であって、その大部分が口頭発表と日本人自身の手記に限られている。

このスケッチでは、重要な山脈や高山、特にこの国に特別な性格を与えている火山について、私自身の観察と他者の観察記録を基にしながら詳細に記述していきたい。他者の観察記録といえば、18 世紀末から 19 世紀初めにかけて日本を旅行したティツィンク[2]の報告があるが、日本アジア協会[3]（1878 年 4 月 27 日、横浜）で D.H. マーシャル[4]が行った講演「日本の火山の記録」は極めて秀逸である。山岳の標高に関しては、1874 年から 1875 年にかけて国内旅行を行ったマールブルク大学地理学教授ライン博士[5]の測定値に従うこととし、足りなければ部分的にマーシャルの測定値から、あるいは日本人の用いている尺（31 センチ）を m（メートル）に換算した測定値で記載していくことにする。ライン教授の測定値には R を、マーシャルの測定値には M を添えて、注なしで引用する日本人の測定値には下線を引くこととする。[6]

〈ヤマ〉、〈サン〉、〈タケ〉の語はいずれも同義であるが、〈サン〉と〈タケ〉は独立峰（山頂）によく用いられ、〈ヤマ〉は山脈に多く用いられている。これにくわえて〈峠〉とは峠道のことである。山岳や河川等の名称は、所属する国の名前だったり、目につく形状の類似性だったり、大きさや色、関連する伝説などから借用されている。名称の由来は忘れられていることが多い。特に古い神話に由来している大和名は疑わしい。だが許されるのであれば、私ならそのような名をつけてみたいものである。

富士山

欧州人に誤って呼ばれている〈フジヤマ〉か、あるいは日本人に最も好まれている〈フジサン〉か。〈富士山〉は日本の最高峰であるだけでなく、国民生活においても卓越した地位を得ている山である。この国、この国民、この風俗習慣を正しく理解するためには、この山を正確に知ることが不可欠である。それゆえにこの山の記述に関しては、

このスケッチ全体と釣り合いをとるようにはするが、部分的にはより詳細に論じられることになるだろう。

〈フジ〉を漢字で書くと、「不死」の意味になる。伝承によれば、日本自体が「不死の国」つまり〈蓬莱国〉とみなされているという。〈富士山〉を「長寿」と関連させる神話は非常に古く、10 世紀半ばに書かれた〈竹取物語〉の赤い糸につながっている。〈富士山〉は 1707 年以降活動を休止した火山であり、北緯 35 度 21 分、東経 138 度 42 分、〈本土〉島の〈東海道〉にある〈甲斐〉国と〈駿河〉国の国境にそびえている。絵画でよく知られている巨大なピラミッド状の山が堂々と誇らしげに、周囲をとり囲む山岳の迷宮から高く突き出ている。〈伊豆〉国と〈相模〉国にまたがる〈箱根〉山、〈伊豆〉国にある標高 1457m の〈天城〉山[7] が周囲の山としては有名である。日本人は〈富士山〉を描くときにはいつも丸い丘を三つ並べて、中央部分を高く突出させて描く。だが実際に〈富士山〉はそのような状況にはない。観察者の観察地点の後方に集まっている山のうち、特に高くそびえている山頂とその周囲にある二つの低い火口山を区別しているだけなのである。最高峰の山頂は外側へそりかえっているため、その姿のせいで「剣の切っ先」という意味の〈剣ヶ峰〉と呼ばれている。この他に、鈍い丘となっているため「仔馬」という意味で〈駒ヶ岳〉と呼ばれている山がある。南斜面を 1000m 下ったところには、寄生火山の火口山〈宝永山〉[8] がそびえている。この名の由来は、〈富士山〉が最後に噴火した 1707 年、すなわち宝永（1704-1711 年、皇紀 2364-2371 年）4 年、第 112 代〈帝〉〈東山天皇〉（1687-1709 年、皇紀 2347-2369 年）の治世にこの山が誕生したからである。日本人の〈富士山〉の絵画では、〈宝永山〉[9] が山頂へ移動させられて描かれることがあるが、この山は〈富士山〉の側面にある円錐火山である。美しくカーブした曲線で勾配がつけられ、国民に深く愛されている山である。〈富士山〉の頂を形成している山のひとつ〈駒ヶ岳〉の標高は、ライン教授の測定によると 3745m である。工部省測量司の技師 R. スチュワート[10] は、〈沼津〉の浸水深上にそびえる山の標高を測定器で計測して 3865m（31.5 センチ計算で、12365 英フィート）と確信したが、自身の目で確認した標高値を申告はしていない。スチュワートの記録によると、最大火口の深さは 158m であり、ライン教授のアネロイド気圧計を用いた測定では 167m である。〈宝永山〉はマーシャルの測定によると標高 2961m である。

〈富士山〉の耕作領域は、〈駿河〉国では標高 630m まで及んでいる。南西斜面の標高 320m の地点まで、〈茶ノ木〉Camellia Sazankuwa / Thea chinensis、日本版オリーブ

の木の〈油桐〉Elaeococca cordara、〈煙草〉Nicotiana tabacum / Nicotiana chinensis を確認することができる。1605 年にポルトガル人が導入して、最初に〈長崎〉に植えられたのが、〈蜀黍〉Sorghum saccharatum / Holcus saccharatus または〈玉蜀黍〉であり、その他に〈粳稲〉または〈米〉Oryza sativa、〈黍〉Panicum miliaceum がある。マメ科の植物〈豆〉は種類が多く、醤油を製造する〈大豆〉Dolichos / Soja hispida、〈大角豆〉Dolichos umbellatus、〈小豆〉Phaseolus radiatus、〈隠元豆〉Phaseolus vulgaris、〈空豆〉Vicia faba、〈豌豆〉Pisum sativum、〈鉈豆〉Canavalia incurva D.C. などがあり、この他には〈里芋〉Arum esculentum、〈タロイモ〉、〈薩摩芋〉Ipomoea edulis、〈樒〉Illicium anisatum、〈橡ノ木〉Aesculus turbinata、〈駿河〉紙に用いる植物〈三椏〉Edgeworthia papyrifera などがある。

この耕作領域を越えると、標高 300m から 2500m の間には草原地帯〈原〉がある。〈原〉の植物相には色鮮やかに咲き乱れた薬草や芝生が共生しており、温暖な北半分をほぼ覆っている。この草原地帯を越えて山の半分まで上ると、貴重な樹木が生い茂る鬱蒼とした森林地帯にかわる。森林は様々な種類の針葉樹と落葉樹からなりたっているが、なかでも最も有益な木が〈杉〉Cryptomeria japonica で、その木材は家具材と箱材に有効利用されている。〈檜〉Retinospora / Chamaecyparis obtusa は造船材と家具材に、〈椹〉Retinospora pisifera は建築材と家具材に、〈檜葉〉Thujopsis dolabrata と〈鼠子〉または〈黒檜〉Thujopsis laetevirens はいずれも建材と家具材に利用されている。日本版ゼイヨウネヅ〈紅白檀〉Juniperus japonica は、もっぱら家具専用である。〈赤松〉Pinus densiflora は建造材と建築材に、〈黒松〉Pinus massoniana は国内最安の材木であるため、変化にとんだ利用法がある。〈姫小松〉Pinus parviflora は家具材に、〈唐松〉Pseudolarix Kaempferi は造船材と建築材に、〈犬榧〉Cephalotaxus drupacea は家具材に、〈樅〉Abies firma と〈針樅〉Abies polita[11] は造船材と建築材に、〈唐檜〉Abies aleutiana と〈白檜曽〉Abies Veitchii[12] はいずれも建築材と家具材に利用されている。さらに〈胡桃〉Juglans mandchurica は室内装飾材や家具材、木彫に、〈沢胡桃〉Pterocarya sorbifolia は建具材に、〈柏〉Quercus dentata は造船材に、そしてその樹皮は染色材に、〈栗〉Castanea vulgaris は造船材や建築材、家具材に、〈峰榛〉Alnus firma は家具材や布地巻枠、散歩用杖に、〈山榛ノ木〉Alnus incana[13] と〈水目〉Betula sp. は家具材に、〈川柳〉Salix japonica と〈山柳〉Populus Sieboldii は〈火箸〉や歯ブラシに利用されている。日本の歯ブラシは西洋の歯ブラシのように動物の毛を側面にあてて作られているのでは

なく、丸い棒状になっている。棒の端を細かくほぐし摩耗させることで、筆のような刷毛が作られるのだ。〈橅〉Fagus silvatica は造船材と家具材に、〈ソロ〉Carpinus sp. は建材と薪に、〈欅〉Planera japonica は羽目板や木彫に大変重宝されている。〈榎〉Celtis chinensis / Willdenowii は建具材に、〈山桐〉Elaeococca cordata はその果実から油が採れる。〈小臭木〉Celastrus orixa と〈柘植〉Buxus sempervirens は櫛と木彫に、〈犬柘植〉Ilex crenata は家具材に、〈朴ノ木〉Magnolia hypoeuca は建具材に、それから漆器と金属を研磨するための石炭に、〈漆〉Rhus vernicifera は上塗り溶液に、〈柿〉Diospyros Kaki は優れた食用果実でもあり、黄色染料の中心素材に、〈花梨〉Pyrus chinensis は価値ある木材で、食用果実も採れる。〈桷〉Phrus sp.[14] の木材は黄色染料をうみだす。〈琵琶〉Eribotrya japonica の木材は家具材と弦楽器に、その果実は食用に、〈橡ノ木〉Aesculus turbinata は家具材に、〈無患子〉Sapindus Mukuroji は建具材に、〈紅葉〉Acer polymorphum var. は建具材に、〈木斛〉Ternstroemia japonica は櫛と家具材に、〈百日紅〉Lagerstroemia indica は建具材と彫刻師の道具に、〈梅檀〉Melia japonica は建具材に、この他に〈青木葉〉Aucuba japonica などがあげられるだろうか。ヨーロッパにあるスイスマツ Pinus Cembra は、日本では五葉松 Pinus parviflora S&Z に相当するようである。〈富士山〉の植物相にこれ以上踏み込むことは、このスケッチの領域ではない。各工芸部門に有効活用されている植物を列挙するだけで十分としよう。森林地帯の上は無生物地帯となっていて、万年雪に覆われた溶岩ピラミッドがそびえている。日本人巡礼者の報告書によると、わずかにその割れ目に〈肉従蓉〉[15] という薬用効果のある植物が生えているだけだという。

〈富士山〉頂上までは 4 本の登山道が延びている。〈丸山〉[16]、〈須山〉、〈須走〉、〈吉田〉からの登山道である。〈吉田〉は登山に最も便利で、〈須走〉は下山に便利である。いずれの登山道沿いにも約 10 軒の山小屋が建ち、多くの巡礼者の休憩所となっている。夏になるとこの聖山の山頂を目指す巡礼者が国内各地域から集まり、果てしない行列をなして行脚するのである。5 月 30 日以降に（実際は 7 月末）〈富士山〉巡礼が始まると、山のあちこちでこの巡礼者に遭遇する。彼らは白衣を身につけ、平たい竹傘を被り、巡礼杖を手に持ち、瓢箪、祈祷用数珠、振鈴、残してきた家族と友人の名を書いた奉納紙を帯に挟んでいる。最後の山小屋はだいたい山の三分の二の高さを少し越えたところにあるのだが、山頂で日暮れを迎えたい巡礼者はこの小屋で持参した米を炊くことになっている。山上までいくと、水が沸騰しないからだ。山上の火口の東側には頑

丈な石組の小屋があり、夜間の厳しい寒さから登山者の身を守るために備蓄燃料と暖かい毛布が常備してある。巡礼の頂点で日の出を迎えるその瞬間を、巡礼者は待ち望んでいるのである。

素晴らしいのは、晴れた日に〈富士山〉山頂から眼下に広がる展望である。山の尾根の間の峠から岩場を越え、峡谷、湖、河川、平地を越えて、水平線にかすむ太平洋の青い水面まで、その眺めはずっと続いている。西側には〈遠江〉国の〈秋葉山〉[17]が差し迫り、日本第二位の高山である〈信濃〉国の標高 3005m の〈御嶽山〉がそびえている。北東の標高 2527m（R）の〈浅間山〉からは休みなしに煙柱がたち昇っている。北西には裂け目のはいった〈八ヶ岳〉の山頂が高くそびえてる。しかしそんな光景が登山者の目に映るのはごくまれでしかない。この山頂は常におとぎの国の雲を突き抜け、眩しい太陽のきらめきの中で光の魔法にかけられているのだから。その光は絶えず色彩を変化させながら、山の下に波打って流れている霧の塊に降り注いでいる。そのベールが突然少し開いて、一瞬だけ覗く景色が地上の存在を思い出させてくれる。1873 年 8 月の満月の夜はなんと素晴らしかったことか！透き通るほどに澄みきった天空で満月が煌々とした光を放ち、足下に無限に広がる不透明な雲海を照らしていた。そもそも視界に入ってきた光景は、この世のものではなかった。すぐそこの岩場の隅まで銀の霧に包まれて、巨大なダイアモンドの光があちこちで虹色にきらめいていた。失われた世界の沈黙に包まれて、ただ永遠なる自然の聖霊の吐息だけが静かに流れていくのだった。

「盛り上がる山々が高くそそり立つにつれ、広く深く窪んだ谷間が、下へ下へと沈んでゆき、滄海をたたえるのにふさわしい広漠たる海底となった」

このミルトン[18]の言葉と全く同じように、日本の伝承は〈富士山〉誕生の様子を伝えている。それによると、第 7 代〈帝〉〈孝霊天皇〉[19]（西暦前 290-215 年、皇紀 371-446 年）の治世 5 年目に、現在の場所で火山が噴火を繰り返したあと、西暦前 286 年（皇紀 374 年）に〈富士山〉が誕生したのだという。その伝承によれば、500km 離れた〈近江〉国にある国内最大の内陸湖〈琵琶湖〉も同時期に形成されたらしい。しかしこの年代の正確性に関しては、現在の日本の教養人は疑問視している。799 年、864 年、936 年、1031 年、1082 年、1649 年、1707 年に火山噴火が起きたことは、〈日本紀略〉[20]と〈三

才図会〉で歴史的に証明されている。初期の歴史書〈日本紀略〉によると、799 年の火山噴火では、火山灰と火山礫が炎の塊や雨となって恐ろしい轟音とともに山頂から噴出し、山裾の川が炎の反射で真っ赤に染まったという。〈三才図会〉の報告によると、864 年の火山噴火では、炎の柱が天高く昇り、地震が頻繁に起こって、40km 離れたところにある海岸線が 8km 後退し、大量の魚が死んだという。

1707 年[21]の最新の噴火に関しては、極めて正確な報告が残されている。激しい地震が〈駿河〉国と〈遠江〉国を襲い、恐ろしい雷鳴のような轟音が鳴り響いて、その轟きは 110km 離れた〈江戸〉でもはっきり聞き取ることができたという。同時に〈須本岳〉と〈愛鷹山〉の間には巨大な炎が燃え上がった。〈富士山〉の非の打ちどころのない完璧なシンメトリーの線を崩した鞍部から、火山灰、溶岩、火山礫が噴出し、〈上総〉国、〈下総〉国、〈安房〉国に至るまで雨となって降ってきた。この噴火のときに、先述の〈宝永山〉が〈富士山〉南斜面に誕生したのである。

〈富士山〉の調和のとれたピラミッドは、脇にあるいくつかの隆起と、先述の〈宝永山〉、〈大室山〉[22]、優雅な双子山〈二ツ塚〉によって遮られている。山麓には息をのむ美しさの〈白糸の滝〉がある。この地域にはたくさんの硫気孔があるが、〈大地獄〉と〈小地獄〉が最も重要であろう。〈大地獄〉は〈冠ケ岳〉[23]の斜面にあり、その横の〈早雲山〉からは、まるで地獄にでもいるように硫黄蒸気が絶え間なく噴出している。〈熱海〉の間欠泉もまた、〈富士山〉が活動中の火山であることを認識させてくれる。〈富士〉の山裾には、二つの大きな湖〈川口〉湖と〈山中〉湖と、三つの小さな湖〈本栖〉湖、〈西〉湖、〈精進〉湖[24]があって、これらの湖は全て〈富士〉山頂から確認することができる。尾根を隔てて、〈相模〉国側の山に囲まれている深い盆地には、〈箱根〉湖または〈芦〉湖があるが、この湖も上記の湖同様に火口湖である。

〈本土〉で二番目に高い山は、巨大な山塊が交わる〈御獄山〉[25]である。この山は〈信濃〉国を越えて〈美濃〉国、〈飛騨〉国へと分岐している。ライン教授はこの山を標高 3005m と測定している。

日光連山

〈白根ヤマ〉（2830m、M）は、〈白根サン〉と間違って発音してはいけない。〈白根山〉は〈下野〉国と〈上野〉国の国境にあり、〈浅間山〉（2527m、R）は〈上野〉国と〈信濃〉国の国境にある。いずれも日本の活火山の最高峰である。[26]〈白根山〉が激しく噴火

したのは1872年6月であるが、この噴火で全ての樹木が倒れて、炭になった切株が今なお植林した森に残っているという。[27] 過酷な山道が〈前白根山〉から稜線沿いに続いているが、この〈白根山〉の禿げて尖った輪郭はそれより400m高くそびえたち、山裾まで裂け目によって切り裂かれている。この山には「生徒の湖」を意味する魅力的な青い湖〈五色沼〉[28] がある。火口には不規則に裂け目が入り、沈下や亀裂がいくつも生じて、雨水が貯まっている。そのような岩場に〈岩燕〉Hirundo alpestris japonica Schl. のような鳥が巣作りをする。火口山の下の森林地帯の植物相は、石炭化した切株である。現在成長している植物としては、主に〈岳樺〉または〈山樺〉Sorbus sp.、〈杉〉Cryptomeria japonica、そして様々な種類の〈松〉Pinus sp.、〈紅葉〉Acer polymorphum war. が見られる。開けている場所は、〈隈笹〉Bambusa Kumagasa、〈石楠花〉Rhododendron Metternichii で覆われている。山裾には珍しい西洋山薄荷〈雪降草〉Melissa clinopodium が生えている。マーシャルによれば、〈白根山〉は〈下野〉国の日光連山の最高峰である。日本人は隣の〈男体山〉のほうが高いというが、ラインの測定では2541mしかない。マーシャルは〈湯ノ湖〉(1270m)[29] の水面上にそびえる〈白根山〉山頂が、〈中禅寺湖〉水面上の〈男体山〉山頂と同じ標高とみている。実際に〈男体山〉は〈白根山〉より230m低いのであるが。〈前白根山〉山頂は〈白根山〉より同様に230m低い。だが1878年7月にマーシャルが測定したときには、〈湯ノ湖〉の300m上まで残雪があったという。

ここの火山地帯には、たくさんの温泉と温泉施設がある。温かい泉を意味する〈湯元〉[30] 村は湯治客がきわめて多い温泉地であり、村の周囲には硫化水素煙がたち込めている。主要源泉は大きな木製タンクに集められて、そこからさまざまな入浴施設に送られていく。〈湯ノ湖〉の水は硫黄を含んでいるが、この湖には魚や血吸蛭が生息している。湖水は40度の角度で流出口から黒泥岩の上を流れ落ちていき、〈日光〉で最も美しい白い泡を放つ〈湯滝〉となって、その水が〈中禅寺湖〉に注がれる。この湖に魚はいないが、蛙、山椒魚、血吸蛭は生息している。水晶のように澄んだ魅力的な湖底は砂利ばかりで、泥や水生植物とは無縁である。その流出口は〈華厳ノ滝〉となるが、アネロイド気圧計で測定してみると滝の落差は87mであった。もっとも日本人はこの滝の落差を124m、滝幅を23mと見積もっているのであるが。[31] 滝の上から石を落とすと、落下時間は5秒かかる。湖から流れ出る川の流れは、〈華厳の滝〉に至るまで500m以上の距離があるので、湖面の水位が低い場合は滝から落下する前に

透水層の地面で干上がってしまうこともある。水の流れは滝の途中で無数の細かい輝きを反射させながら落下し、滝壺で勢いある山の流れ〈大谷川〉と合流する。この川は〈中善寺〉湖の〈峠〉を登るときに、何度も越えなければいけない川である。

〈中禅寺湖〉湖畔には、休火山の〈男体山〉が湖面にその姿を映してそびえている。この火山は山頂まで森林で覆われているが、実は火山礫と溶岩が積み上げられているだけの山である。最高地点は水面標高 1270m、海抜 2541m（R）である。この山からは〈富士山〉や〈浅間山〉だけでなく、雪に覆われた〈信濃山〉山頂や〈日光〉連山の迷宮をはるかに越えた展望が広がっている。日光の最高峰〈日光山〉(2008m) からは、落差 93m、滝幅 9m の〈霧降ノ滝〉[32] を拝むことができる。

雄大な自然の魅力に影響を受けやすい国民は、この壮大な山の力強い魔力に心をとらわれて、感動のあまり「光を放つ」を意味する〈日光〉[33] という名で表現した。太陽光に包まれた〈男体〉山が〈中善寺〉湖の水晶の湖面に反射しているときの美しさを、詩人 [34] は高揚した表現で歌に詠んでみることにする。〈霧降滝〉から数千の虹となって広がる豊かな色彩、〈湯ノ滝〉のダイアモンドのような飛沫、〈華厳滝〉の銀色に輝く水の魅力を讃えよう。人々の崇拝を集める、威厳に満ちた山の巨人よ。その頭頂を雪で覆い、心臓には灼熱の炎を、四肢には鬱蒼とした森の緑をまとって、魔法の国の宝を永遠に守り続けるこの巨人に、この賛美の歌を捧げようではないか。

「突然に　岩の裂け目に　現れたる聖霊　山の老人」

〈日光山〉の古〈神道〉の山神〈日光権現〉[35] は、太古の昔から国民に崇拝されてきた。そして国民の心には､神の国がゆるぎない存在として建国された。敬虔な仏僧〈勝道〉[36] は新宗教の提唱者としてこの神と向き合ったが、彼の力は及ばなかった。この神のなかに〈大和〉時代の古い仏陀の悟りを見出し、仏教の聖人として受け入れざるをえなかったのだ。

この極めて古い〈日光権現〉寺の近くには、極めて新しい〈権現〉の聖域がある。有名な将軍であり偉大な立法者でもあった〈徳川家康〉を埋葬した壮麗な寺院である。彼の遺言に従って、息子であり後継者の〈秀忠〉(1605-1623 年、1632 年没、皇紀 2265-2283 年、2292 年没）は、1617 年（皇紀 2277 年）にこの寺院を建立した。〈家康〉は 1616 年（皇紀 2276 年）5 月 8 日に没した後、最高位の君主を意味する〈正一位東照大

権現〉または短く〈権現様〉という名で呼ばれることで神格視されるようになった。これが最近の仏教における神格化である。後年の規定で、この寺院の院長は代々血縁者の王子が務めることとなり、〈輪王子宮〉という称号が継承されていった。

浅間山

〈信濃〉国と〈上野〉国の国境にある標高 2527m（R）の〈浅間山〉は活動中の火山である。歴史上最古の噴火は 1650 年で、〈浅間山大変略記〉[37] には〈浅間山〉噴火記録の抜粋が記述されている。この噴火のあと 133 年間、この山は微弱な活動を続けていたが、1783 年 8 月 1 日に恐ろしい噴火が起こった。その噴火ではまず〈草津〉の湯治場で突然湯が沸騰し、多くの湯治客が命を落とした。泥、火山礫、砂が激しく噴出して、地域の広範囲が丸一日完全な闇に閉ざされた。男性 2 人でも持ち上げられない巨大な石塊が〈追分〉[38] まで投げ飛ばされた。44 村落が破壊され、その中には溶岩に完全に埋もれた〈大前〉村もあった。多くの人間と家畜が命を落とした。河川や小川は干上がるか氾濫した。またこの噴火では地震と地下からの轟音が確認されたという。[39]1870 年に〈浅間山〉は再び活動を始めた。同年に〈横浜〉が激しい地震で揺れた。それ以降、その広く深い火口からは濃い煙雲が立ち上っている。マーシャルの報告によると、火口は裂け目のある硫黄岩の壁で囲まれていて、無数の裂け目と穴から硫黄の蒸気が吹き出ているという。煙の柱は火口の奥底から上がっているのではないのだ。真夏になってもこの裂け目には残雪が見られる。この山は〈追分〉から登るのが最も容易である。赤い鉄分を含む埴土の池、いわゆる〈血の池〉と、同様に鉄分を含む粘土で赤く染まった〈血の滝〉[40] の脇を、登山道が通っている。乾燥した泥質土は 37% の鉄分を含む。山裾には湯治客でにぎわう高温の鉱泉浴〈草津〉がある。

草津白根山

〈浅間山〉の日帰り旅行から少し離れて、〈白根サン〉[41] は〈上野〉国と〈信濃〉国の国境にある。この山は活動していないので火山とはあまり知られておらず、日本人は近くにある〈白根ヤマ〉とよく間違えている。〈草津〉から〈渋〉峠へ向かう登山道を登ってみれば、山頂（マーシャルの測定値は標高 2170m）は草木がなく黄赤色である。山頂付近には小さな火口湖が二つあり、片方の湖は黒色で、山頂より 30m 下にある。もう片方のトルコブルー色の湖はその 47m 下にあり、結晶化した硫黄が広く帯状に池

の縁を囲んでいる。この池は物腰柔らかではあるが、接近するのは極めて危険である。ここの色彩は感心するほど豊かである。金色に縁どりされた空色の湖が、色とりどりの火山岩に囲まれているのだから。青い湖水は酸性で鉄分を含んでいる。近隣には小屋が三棟建ち、硫黄分を含んだ泥質土（硫黄分 75%）の洗浄装置が設置されている。少し降りていくと第三の火口があるが、そこは雨水が貯まっているだけである。山からは水が湧き出て川となっているが、その水には鉄分と明礬が大量に含まれている。先に説明した道の分かれ目の岩肌には、〈毒水〉という文字が刻まれている。

岩鷲山

〈岩鷲山〉または〈ガンシュサン〉[42] は活火山、つまりまだ活動中と結論づけられた火山である。〈東山道〉の〈陸中〉国にあり、同国の首都〈盛岡〉から約 38km、〈東京〉から 600km 離れている。登山は極めて厄介だと伝えられている。というのも〈盛岡〉から 18km 離れた〈雫石〉村まで移動し、そこから登山道が始まる〈西根〉（3km）[43] まで、足元の悪い狭い山道しかないのである。最初に複数の河川を何度も渡らなければならず、ようやく湿原地帯に達すると、そこにはメキシコのホルージョ火山周辺にあるような円錐火山岩が無数にそびえている。湿原の向こうからは狭い急な山道が再び始まっているが、滑りやすいローム質土壌の道はたくさんの巡礼者団体に踏み固められて、ボロボロの不規則な階段となり、所々で歩きにくくなっている。深い森を約 4.5km 抜けたあと、その道は溶岩と火山性砕屑岩でできた火口山につながっていく。そこから上に向かう道はやや歩きやすい。山頂とみられる場所に辿り着いたときだけ、火口の縁の外側に火口礫と粉砕岩でできた美しいシンメトリーの第二の円錐山がそびえているのが見える。登頂後に噴火口内部の縁に立つと、第三の山の火口から蒸気が噴き出ているのが見える。火口には巨大な岩塊が無秩序に積み上げられていて、その色鮮やかさは実に見事である。谷間の脇の煙道からは、高温の硫黄蒸気が濃煙を噴きあげているが、谷間にも蒸気を噴きあげている割れ目がたくさんある。この山の火口内部の縁は海抜 2100m で、そこからは日本海や〈津軽〉海峡を越えて〈蝦夷〉方面、太平洋方面まではるかに展望が続いている。

他の本土の山

ここからは休火山の〈恐山〉へ視線を向けていこう。ほっそりした円錐状の山は〈陸

奥〉国の〈焼山〉連山からそびえている。この向かいの〈本土〉の北端、〈青森〉湾の向こう側には〈岩木山〉がある。この山は〈富士山〉との類似性と〈津軽〉海峡という場所柄から、〈津軽ノ富士〉と呼ばれている。同様に休火山である。[44] 日本の山岳の多くは、〈富士山〉に類似していると、その山の特別名称を〈富士〉という言葉に結びつけられる傾向にある。そのほぼすべてが休火山である。そのような〈富士〉に似た火山が〈東山道〉の〈羽後〉国にある標高 2156m の〈鳥海山〉[45]、日本の地理学者には旧〈出羽〉国の最高峰といわれている山である。〈出羽〉国とは、〈本土〉北部の〈羽後〉国と〈羽前〉国を包括した国のことである。たくさんの巡礼者がここの山頂を目指して毎年巡礼し、山の守り神の〈鳥海権現〉に信仰を寄せている。〈羽前〉国には標高 1656m の〈月山〉[46] が、〈岩代〉国と〈越後〉国の国境には標高 1237m の〈飯豊山〉がそびえている。この他に休火山としては、〈岩代〉国の〈磐梯山〉があげられる。この山は、〈会津〉の古い城下町〈若松〉平野の半分を占めている連山の最高峰である。絵画のように美しい城の廃墟から約 4km の地点に、湯治場〈湯本〉[47] がある。〈岩代〉国と〈下野〉国の国境には、まだ周期的に活動している〈那須山〉がそびえいて、〈苦戸川〉[48] が流れている。ここの山裾にはたくさんの湯治場があるが、中でも有名なのが〈鹿ノ湯〉[49] 温泉である。同名の川が流れる同名の村にあり、温泉が川床のあちこちから湧き出ているため、冷水と温水に交互に浸かることができる。

まだ周期的に活動していて、最新噴火が 1875 年という火山がある。〈越後〉国にある裂け目のついた大きな円錐山〈焼山〉[50] である。〈越後〉国の最高峰は休火山の〈妙高山〉で、〈越中〉国にある休火山の〈立山〉は 1680m（M）である。〈加賀〉国と〈越前〉国の境にある標高 2720m（R）の〈白山〉[51] では、1239 年（皇紀 1899 年）と 1554 年（皇紀 2214 年）に激しい噴火が起こり、歴史書や年代記に繰り返し記録された。その山裾を流れる高温の鉱泉は、最新の噴火で流れ始めたものである。山頂が万年雪で覆われていることから〈白山〉にはその名がつけられた。〈相模〉国にある〈大山〉[52] では、1853 年に激しい噴火が起こっている。〈大台山〉または〈大台ヶ原山〉[53] は〈大和〉国と〈紀伊〉国の国境にあるが、この山をジョン商館長は 1800m と測定した。ブラントン [54] の地図にはまだ活動中の火山として記載されている。〈吉野〉山 [55] は〈山上ヶ岳〉または〈大峰〉山を最高峰にもつ。〈大和〉国に属していて、〈紀伊〉国の〈熊野〉山に分岐している。〈本土〉の山の紹介の最後に、1570 年代の仏教寺院の争いの歴史で有名になった〈比叡山〉（825m、R）[56] が、〈琵琶湖〉畔の〈近江〉国と〈山城〉国の

国境にあることを思い出すことにしよう。

伊豆諸島

〈東海道〉の〈伊豆〉国の南東にあるのが、太平洋に浮かぶ火山群島の〈伊豆諸島〉島で、これは東伊豆諸島とも呼ばれている。このうち〈本土〉に近い最大の島が〈大島〉である。この島には800m（M）の活火山〈三原山〉[57]があり、二度の恐ろしい噴火で有名になった。1684年から1690年まで7年間継続した噴火と、それより激しい1777年の噴火である。そこまで激しくないものの、最新の噴火は1877年1月から1878年6月まで続いた。古い火口の中に新たな降下物の山ができて、その煙道から2、3秒おきに溶けた溶岩が噴出したのである。溶岩は300mから350mの高さまで噴出して上空で急速に固まると、再び噴火口に落下してきた。だが注目すべきは、〈大島〉で地震が一度も起きなかったことである。〈三原山〉が噴火している間には〈東京〉で激しい振動が起きていたのに、それでもこの島で揺れを感じる者は誰もいなかった。

〈大島〉南東にある前島は「小さい島」を意味する〈新島〉[58]だが、この島は見るからに古い火口である。急勾配な壁が海側にそびえたち、壁にできた裂け目が海水の進入を許している。壁は火山岩石で、溶岩が風化して独特の鮮やかな色にかわっている。住民の供述によると、約100年前に海水が火口を突破して、現在の港ができたのだという。そうするとこの出来事は1777年の〈三原山〉噴火と重なるのではないか。

〈伊豆諸島〉で二番目に大きい〈八丈島〉には、巨大な〈富士〉山に似た〈西山〉[59]がある。この山は〈八丈ノ富士〉または〈甑峰〉と呼ばれており、古文書によると15世紀と16世紀に激しい噴火があったようである。山頂には水で満たされた急勾配の火口があるが、ここは相当の円周である。この島は将軍時代には反逆者の流刑地であった。ケンペルは貴族だけが流された島と誤った報告をしている。ケンペルは自身が上陸したときの様子を以下のように描写している。「この島は荒れ狂った嵐のような海に囲まれて、自然からうまく守られているため、食糧や新たな囚人が届けられたり、見張りが交替するときには、海岸が急勾配で岩だらけなので、積荷をいっぱい積んだ船を重機で引き上げることを強いられる。だがまたすぐに他の上陸方法が試される」

〈大島〉と〈八丈島〉の間には〈三宅島〉があるが、ここの〈雄山〉[60]が1874年に噴火した。現在は豊かに成長した植物で覆われている〈ヤマブキ沢〉という場所があるが、日本人の記録によれば、そこで噴火が数回起こっている。最初の噴火は1711

年で、1713年まで休むことなく継続した。その後は1763年と1769年に噴火が続いた。

四国と九州の山

〈四国〉島で有名な山は、〈伊予〉国にある標高1350mの〈石槌山〉[61]である。この島に活火山は知られていない。しかしここにも円錐山はたくさんあり、それは間違いなく休火山であって、温泉もたくさん湧いている。地震も極めて頻繁に起こっている。

それに対して〈九州〉島では、極めて重要な標高の高い活火山をいくつも確認することができる。〈肥後〉国の〈熊本〉北東にある〈阿蘇岳〉または〈阿蘇ヶ岳〉[62]はこの島の最高峰とみなされているが、まだ測定されていない。とくに南斜面が急勾配で、裂け目が入っている。伝承によると、1600年代前半にキリスト教徒が迫害されたとき、この山の火口に突き落されたという。ケンペルの旅行中、この火山は活動していたようだ。その山頂からは休みなく炎が上がっていたとケンペルが報告している。

〈肥前〉国の〈島原〉にある〈雲仙ヶ岳〉では（地図や書籍にはヴセンと書かれていることが多いが）近年では1793年に火山活動が起こった。[63]この恐ろしく破壊的な噴火については、ティツィンクが記述している。彼は1784年に日本を出国し、この災害時にはインドに滞在していたのだが[64]、日本人から次のような報告が届けられた。「この三ヶ月間、三つ並んだ円錐火山から噴火が続き、そのたびに激しい地震にみまわれています。最新の噴火が最も恐ろしかった。噴火直前に地震が起きて、〈島原〉城の向こう側にある民家の多くが住民もろとも飲み込まれてしまったのです。山からは巨石が転がり落ちてきて、道沿いにある全てのものを粉々に打ち砕き、それと同時に大砲を連発したときのような轟音が地底から鳴り響きました。海面が上昇して、町と周辺地域は水浸しになりました。山のひび割れた裂け目からは大量の水があふれでて、その裂け目には海から通りに流れてきた海水が入りこみ、渦を巻いていました。こうして家屋は基礎から掘り返されて、一掃されてしまったのです。無傷で残ったのは城だけ。水は城壁の頑丈な切石までは破壊できなかったからです。しかし周囲の家屋は徹底的に破壊されて、53000人が命を落としてしまいました」

シーボルトはこの百年間で初めての噴火だと主張しているが、山から煙が上がっているのを見たケンペルは、これに意義を唱えている。なおケンペルはこの火山周辺に多数ある温泉について、次のような気楽な逸話を紹介している。「この土地の僧侶は、この付近に湧いている温泉を特殊な名称で呼んでいる。水底に沈殿していた泡が音を

たてながら水面まで浮きあがってくる特性からつけられた名称だ。職人や商人といった様々な職業専用の煉獄に置き換えて、彼らの活動とこの温泉の特性を関連づけたのである。例えば死んだあとに〈酒〉醸造者は泥だらけの深い温泉の底へ、調理人と菓子職人は白い泡だらけの温泉へ、喧嘩好きや揉め事の多い人間は喧しい騒音が水底から沸いてくる温泉へ行くといった具合に。このようにして僧侶たちは眼識のない迷信深い下層民を騙して大金を脅し取っている。祈りと仲裁によって死後の苦しみから救済されると信じこませることで」

シーボルトは〈雲仙岳〉を標高 4100 尺（1271m）と見積もっているが、国立技術学校〈工部大学校〉[65] が行った測定によると、4816 尺（1493m）である。〈日向〉国の南部〈諸県郡〉[66] にある〈霧島山〉には円錐火山が二つあり、東西の〈霧島〉と呼ばれていて、西の霧島からは絶えず硫黄蒸気があがっている。〈霧島〉は先述の公式測量によると〈雲仙岳〉（1493m）と同じ標高である。この近隣の最高峰として、〈阿蘇岳〉と〈英彦山〉と共に連山をなして〈九州の壁〉と言われている。〈霧島山〉は神話によって神聖視されている山である。神の夫婦である〈伊弉諾〉と〈伊弉冉〉が、後には初代〈帝〉〈神武天皇〉の四代前の〈彦火瓊瓊杵尊〉[67] が降臨して、〈日向〉（現在の日向国）に居住地を定めたという伝説があるからである。〈神武〉は日本国を建国しようとして前 660 年にここから出発した。この山には信心深い眼差しが向けられて、山頂の周囲に浮かぶ銀雲の中に、古い祖国の〈神〉の姿が見えると信じられていた。〈豊後〉国と〈日向〉国の国境にある〈嫗ヶ嶽〉（1085m）、〈豊後〉国の中央の〈阿蘇山〉北にある〈鶴見岳〉、そして〈薩摩〉国にある〈開聞岳〉（1024m）はすべて活火山である。[68]〈鹿児島〉湾（大隅国）の〈桜島〉には、標高 1212m の火山〈御嶽山〉[69] がある。1828 年の恐ろしい噴火のときには激しい地震が起こり、地震の揺れは〈本土〉まで伝わった。

〈九州〉の最南端〈佐多岬〉の南西には、絶えず煙を吹きだしている火山島〈硫黄島〉[70] がある。ケンペルはこの島を発見した最初の旅について生々しく語っている。「大量の硫黄が〈薩摩〉国から飛来してくるが、これは隣の小さな島で作られている。この島は自身が放出する大量の物質のせいで〈硫黄島〉と呼ばれているのだ。その島に人が挑んでから、まだ 100 年もたっていない。それ以前は人を寄せつけない島とされてきた。絶えずあがっている濃い煙と、とりわけ夜間に遭遇すると思われていた多くの幽霊と異常な怪奇現象のせいで、鬼の住む島と信じられていたのだ。それも思い切りのよい勇気ある男が申し出て、その島に渡り調査する許可を得るまでの話である。

50 人の勇敢な男たちを引き連れてその男が上陸したときに目にしたのは、地獄でも鬼でもなかった。頂上には平坦で広い場所があったが、至る所が分厚い硫黄で覆われ、歩きだすと両足の下から濃い煙があがった。この時からこの島は〈薩摩〉国の王子に毎年銀 20 箱を運び入れているが、ここから出る硫黄のためだけにその銀は使われている。沿岸に生えている木々や木材から得られる収入どころではない」

〈琉球〉諸島には、〈諏訪瀬島〉と〈鳥島〉[71] という二つの活動中の火山島がある。

河川

鬱蒼とした森に覆われて、深く狭い谷で複数に枝分かれしている日本の山からは、豊かな水が湧き出ている。その水は急勾配の深い谷に力強く落下して、無数の小川や河川に集められ、谷間では愛らしい湖となる。火山や硫気孔のそばで隠れた炎に温められ、高温の鉱泉として湧き出ることもある。この島の〈川〉[72] は、狭い川幅が広がっていくのと同時に、縦軸は分水嶺に沿って進み、脇からは谷底へと流れ落ちていく。その落差は激しく、広くなったり浅くなったりすることで変化のある川床をもつが、大部分が比較的短い流れである。それゆえに長い区間にわたって船で航行できる河川はわずかしかない。諸国を流れる間に川の名称は各地で認知されていくが、河口ではたいてい別の名称になる。よくその土地の名称に変更される。

〈本土〉島の多くの川は太平洋に注がれているが、大きな二本の河川が日本海に注がれている。それが〈信濃川〉[73] と〈江ノ川〉である。〈信濃川〉は最初は〈千曲川〉と呼ばれていて、〈越後〉国に入ると〈信濃川〉という名称にかわる。この川は〈信濃〉国の〈佐久〉郡に水源を発し、最初に北西に流れ、それから北へ流れて、〈北陸道〉の〈新潟〉で日本海に注がれる。延長 402km で、最大川幅は 893m である。〈江ノ川〉は二本の川が合流してできた川で、〈備後〉国の〈三次川〉と〈安芸〉国の〈吉田川〉に水源を発している。この二本が合流した川は最初に北東へ流れ、それから〈石見〉国へ流れて、ここではじめて〈江ノ川〉の名称になる。延長 321.5km で、最大川幅は 335m である。日本海へ注ぐ川は他にもたくさんあるが、ここでは〈最上川〉[74] について言及しておこう。この川は〈羽前〉国の〈大日〉山から最初は北へ、次に西へ流れて、〈東山道〉にある〈羽後〉国の〈酒田〉で日本海に注がれる。延長は 250km で、最大川幅は 1451m である。

太平洋に注がれる川として挙げられるのが、〈北上川〉[75] である。この川は〈陸中〉

国に水源を発し、〈陸前〉国を南へ流れ、〈東山道〉の〈石巻〉港で太平洋に注がれる。延長 306km で、最大川幅は 670m である。〈利根川〉[76] は〈上野〉国の〈利根〉郡にある〈文殊山〉山裾に水源を発し、最初に南へ流れ、次に東へ流れて、〈下総〉国と〈常陸〉国の国境をわけながら進み、〈東海道〉の〈銚子〉で太平洋に注がれる。この川は〈下総〉国の〈関宿〉で二本に分かれるが、その片方の〈江戸川〉が〈武蔵〉国との国境を形成する。延長 282km で、川幅は 2790m である。〈天竜川〉[77] は〈信濃〉国の〈諏訪〉湖から流れ出て南下し、〈遠江〉国を縦断している。延長は 242km、川幅は 837m である。〈木曽川〉[78] は極めて不思議な流れをしている。〈筑摩〉に水源を発し、最初は南西へ流れ、次に南へ流れて、〈美濃〉国に入ったあとは東へ、再度南へ向かい、河口の手前で〈尾張〉国と〈伊勢〉国の国境をなす複数の支流に分かれる。延長は 233km、河口の川幅は 1340m である。〈阿武隈川〉[79] は〈東山道〉の〈磐城〉国に水源を発して北へ流れ、〈岩代〉国を通って東に流れているときに再び〈磐城〉国へ戻り、〈陸前〉国の国境まで北へ流れて、それから西に曲がっていく。延長 201km で、川幅が 1116m である。〈大井川〉[80] は〈信濃〉国の国境に水源を発し、南下する途中で〈駿河〉国と〈遠江〉国の国境を形成する。河口の川幅は 2km、延長は 185km である。〈富士川〉[81] は〈甲斐〉国に水源を発し、〈笛吹川〉、〈釜無川〉、〈芦川〉が合流した川である。〈富士川〉は〈駿河〉国を通って南進し、〈富士山〉の山裾を流れて、〈駿河〉湾に注がれる。延長は 133km、川幅は 670m である。

〈淀川〉[82] は〈近江〉国の〈琵琶〉海に水源を発し、最初に西へ流れ、次に南へ進んで、〈山城〉国を再び西へ流れ、南西へ進んで、〈摂津〉国と〈河内〉国の国境を形成している。この川は〈大坂〉湾に注がれる川である。最初は〈宇治川〉という名称で有名な茶の産地〈宇治〉を流れてくるが、〈伏見〉で〈鴨川〉を名乗る。そこから〈京都〉〈大坂〉間の船の航行ルートが形成されている。〈伏見〉の南にある〈淀〉という町には、この川を渡る橋がかかっている。ここでこの川は〈淀川〉という名称にかわる。〈大坂〉からこの川はたくさんの支流や運河に分かれていく。延長は 78km、最大川幅は 1116m である。

〈四国〉島にある〈吉野川〉[83] は延長 165km、川幅が 446m である。この川は〈土佐〉国と同名の〈土佐〉郡に水源を発し、最初は西へ、次に北へと流れる。〈阿波〉国で〈伊予〉国から流れてきた〈伊予〉川を受け入れたあとは、複数の河口から太平洋に注がれていく。

〈西海道〉の〈九州〉島にある最大の河川は〈筑後川〉[84]または〈千尋川〉という。延長が 133km、最大川幅は 440m である。〈肥後〉国と〈豊後〉国から流れてきた支流が二本合流してできた河川である。最初に〈筑前〉国と〈筑後〉国の国境まで北西方向へ流れていき、〈筑後〉国を通り抜けて〈肥前〉国との国境を形成し、〈朝鮮〉海峡へと注がれている。

湖

日本の壮大な〈湖〉または〈湖水〉の多くは、スイスの湖の美しさにひけをとらない。比較的大きな湖をいくつか言及しておこう。とりわけ〈近江〉国の〈琵琶〉湖[85]は名を挙げる価値があるだろう。この湖の名は〈琵琶〉と似ていることから命名された。〈琵琶〉とは幅広い音域をもつリュートのことで、この楽器は果物の〈琵琶〉Mespilus v. Eribotrya japonica と形状が似ているから命名されたのだという。言い伝えによると、この湖は紀元前 286 年（皇紀 374 年）に〈富士山〉噴火と同時に誕生した湖で、周囲の長さは 294km、湖の最長は 80208m、最大幅は 29462m である。周囲は山に囲まれて、湖の深みには美しい森の島が浮かんでいる。湖の南端からは〈淀川〉が流れ出ている。活発に往来する蒸気船が、民衆で賑わう〈琵琶湖〉湖岸の町村を、数年前まで〈大津〉と呼ばれていた〈滋賀〉や 12km 先にある有名な〈京都〉と結んでいる。

〈越後〉国に水を供給している〈阿賀野川〉の水源である〈猪苗代〉湖[86]は〈岩代〉国にあり、外周は 247km である。〈常陸〉国の〈霞ヶ浦〉（周囲長 120km）と〈下総〉国の〈印旛沼〉（周囲長 48km）[87]という二つの湖は、〈利根〉川の水源となっている。この川には〈鬼怒川〉が合流しているが、その支流〈大谷川〉[88]は〈日光〉山にある〈中善寺〉湖（周囲長 32km）から流れ出ている。これ以外に最大の湖のひとつに数えられているのが、〈出雲〉国の〈宍道〉湖（周囲長 52km）[89]であるが、この湖の水は日本海に注がれている。〈陸奥〉国の〈十和田〉湖（周囲長 40km）からは〈奥入瀬〉川[90]が流れ出ている。〈羽後〉国の〈八郎潟〉（周囲長 80km）[91]と〈信濃〉国の〈諏訪〉湖（周囲長 18km）の水は、いずれも太平洋に注がれている。〈相模〉国の〈富士山〉山裾の〈箱根〉山にあり、〈箱根〉湖とも呼ばれている〈芦ノ湖〉（周囲長 20km）は、〈早川〉を通じて同様に太平洋に流れ出ている。さきほど言及した〈富士山〉周辺にある小さな湖同様に、この湖もかつては古い火口だったようである。その湖底と周囲には〈逆さ杉〉[92]と呼ばれる樹木の化石がみられるが、現在ここで豊かな森林を形成している針葉樹

の〈杉〉Cryptomeria japonica が化石化したものである。この湖からは西岸の山を掘削して造成した第二の人口川が流れ出ているが、それは山の反対側にある水田に水の供給を確保するためにつくられた川である。長い年月を費やして完成したこのトンネルは、頑丈な開閉式水門を通して一分あたり 3200 立方フィートの水を供給している。こうして山向こうの水田では、需要に応じて給水したり断水したりすることが可能となったのである。

滝

高い山から豊かな水が軌道を求めて流れ落ち、急勾配の斜面と傾斜に多くの〈滝〉をつくりあげる。そのいくつかは太古の雄大な滝として、豊穣の国の有数の自然美に数えあげられている。滝の多くは人の住まない山や踏み入ることのできない山峡に隠れているため、一般にはあまり知られていない。だがすでに際立っている滝もあるので、ここでは大きな滝をいくつかあげてみよう。〈紀伊〉国の〈那智〉山にある〈那智滝〉[93] は、344m の高さから三筋になって落ちてきて、ときには 33m の滝幅になる。〈磐城〉国の〈厚樫〉山 [94] にある〈雄滝〉または〈大熊滝〉は落差 93m 滝幅 3m で、ここから〈阿武隈川〉ができている。〈大和〉国の〈龍門〉山の湧き水からうまれた〈龍門ノ滝〉（落差 76m、滝幅 8m）[95] は、同名の川となっている。〈四国〉島の〈阿波〉国の〈西端〉山には落差 112m 滝幅 22m の轟音の滝〈鳴滝〉[96] があり、そこから〈吉野川〉が流れ出ている。

温泉

日本は火山国という特性にふさわしく、高温の硫黄泉と鉱泉が非常に豊かであり、その治療効果もきわめて評判が高いため、常にたくさんの入浴客を引き寄せている。入浴客の多い湯治場を挙げていこう。〈伊豆〉国にある〈熱海〉温泉、〈芦ノ湯〉温泉、（〈帝〉もよく訪問された）〈宮ノ下〉温泉。そして〈相模〉国の〈箱根〉山にある〈木賀〉温泉と〈箱根〉温泉。〈上野〉国にある〈伊香保〉温泉や〈草津〉温泉など。〈下野〉国にある〈中善寺〉温泉や〈那須〉温泉など。〈摂津〉国にある〈有馬〉温泉。〈信濃〉国にある〈諏訪〉温泉。〈磐城〉国にある〈甲子〉温泉 [97]。〈但馬〉国にある〈湯島〉の〈城崎〉温泉。〈因幡〉国にある〈湯村〉の〈岩井〉温泉。〈伊予〉国 [98] にある〈道後〉温泉。〈大隅〉国にある〈桜島〉温泉。

港

この島国の長く広い海岸線は、多くの〈入海〉または〈内海〉、そして〈港〉を形成している。太平洋にある〈江戸〉湾は、〈武蔵〉国、〈上総〉国、〈阿波〉国、〈下総〉国に囲まれ、東西 28km、南北 80.5km の広さである。水深は〈東京〉沿岸から 4km 離れたところで 3 尋[99]、すなわち 4.65m である。南には〈横浜〉港があり、そこの水深は 12.5m から 15.5m である。〈大坂〉湾は〈摂津〉国にあり、〈和泉〉国と〈淡路〉国に国境を接している。〈大坂〉港は〈淀川〉沿いにある同名の町からそう遠くなく、水深は 4m である。その東にあるのが、水深 5m の〈兵庫〉（神戸）港である。〈志摩〉国にある〈鳥羽〉港（水深 5m から 8m）は北東向きに開港していて、北側は〈答志島〉、東側は〈坂手島〉と〈菅島〉に守られている。〈伊豆〉国にある〈下田〉港は水深 9m から 12m で、南向きに開港している。〈北上川〉河口にある〈陸前〉国の〈石巻〉港は、同様に水深 8m から 19m である。〈紀伊〉国にある〈大島〉港には、水深 8m の進入口が二か所ある。日本海側には水深 12m の〈陸奥〉国の〈青森〉港があり、この港は北向きに開港されている。同様に北向きの港なのが〈越前〉国にある〈敦賀〉港だが、ここは水深 70m とたいそう深い。日本海に面した〈能登〉国にある〈七尾〉港は、〈鹿島〉郡と〈鳳至〉郡に属する岬となっており、周囲の長さは 56km、中央には〈能登島〉がある。〈七尾〉港は〈鹿島〉郡側にあって、北向きに開港している。水深は 5m から 8m である。北西向きに開港している水深 3m から 8m の〈新潟〉港は、〈越後〉国の〈信濃川〉の日本海河口にある。〈長門〉国の〈赤間関〉港または〈下関〉港は、瀬戸内海の西の入口にある。南東向きに開港されていて、水深は 5m から 15m である。ここまで言及したのは、すべて〈本土〉沿岸にある港である。

〈九州〉には卓越した港が二つある。ひとつは南向きに開港されている水深 8m から 17m の〈肥前〉国の〈長崎〉港、それからもうひとつは同名の湾にある〈鹿児島〉港である。〈鹿児島〉港は、〈大隅〉国と〈薩摩〉国に国境を接している。その中間にあるのが、〈桜島〉島である。港自体は〈薩摩〉国にあり、南東向きに開港していて、水深 28m から 31m である。〈蝦夷〉島、すなわち（北海道）の〈亀田〉[100] 郡にある〈函館〉港は、南西向きに開港していて、水深 6m から 11m である。

条約港

条約港（Treaty Ports）と呼ばれている五港が、外国貿易のために条約に従って開港

されている。〈本土〉では〈武蔵〉国の〈横浜〉港、〈摂津〉国の〈神戸〉港、〈越後〉国の〈新潟〉港、〈九州〉では〈肥前〉国の〈長崎〉港、〈蝦夷〉では〈渡島〉国の〈函館〉港がこれに該当する。〈伊豆〉国の〈下田〉港は〈横浜〉港が海外貿易に開港されたあとに再び閉港されてしまった。条約によると、外国人は開港された港町周辺十里（40176m）以内に居住しなければいけない。それゆえにその地域に置かれた町〈東京〉と〈大坂〉は、開かれた町〈開地〉とみなされている。条約の制限を越えて国内旅行したい者は、旅券を用意しなければならなかった。この条約は1878年には期限切れとなったが、修正後には日本全土が外国人観光客に開かれることが期待される。この国の鎖国[101]の原因は、昔の条約にあった特別区裁判権を放棄し、他の文明国のように日本の権利を認め、在日外国人のための法を尊重し順守することを、列強諸国に拒絶してきたことにあった。

郵便、電信、鉄道

日本の郵便事業は3178の中央郵便局によって賄われているが、〈五畿内〉（天皇が統治する五行政区域）には152、〈東海道〉には603、〈東山道〉には931、〈北陸道〉には182、〈山陰道〉には200、〈山陽道〉には401、〈南海道〉には211、〈西海道〉には417、〈北海道〉には69、〈琉球〉諸島には12の郵便局がある。

電信網は、首都〈東京〉を国内の大都市と接続している。最長区間は〈東京〉と〈長崎〉間の463.414.5m[102]であるが、そこから海底ケーブルでシベリアとペテルスブルクにつながれている。海底ケーブルは〈下関〉から上海へ向かい、ロンドンとニューヨークにまで続いている。この他にも〈東京〉から〈北海道〉の〈小樽〉までの接続があるが、その距離は1365.450mである。

鉄道は〈横浜〉と〈東京〉の二都市間で最初に開通した。さらに〈神戸〉から〈大阪〉経由で〈京都〉（西京）と〈大津〉（滋賀）へ、〈琵琶湖〉の東岸沿いに〈越前〉の〈敦賀〉へと鉄道網が続いていった。こうして〈本土〉の東岸と西岸が直接結ばれている。

二つの首都

日本には首都が二つある。古い首都が〈京都〉で、そこには1868年まで〈帝〉が定住した居城が存在していた。だが行政機能が移転した後に〈江戸〉が国家の第一首都に昇格したため、〈京都〉は現在では時おり天皇が訪問するだけの都市になっている。

幕府崩壊後の〈明治〉元年、1868 年（皇紀 2528 年）に、国家の第一首都は〈江戸〉になると宣言されてから、両都市の古い名称が正式変更された。現在では〈京都〉は西の首都を意味する〈西京〉、〈江戸〉は東の首都を意味する〈東京〉となっている。〈東京〉の名称はすぐに親しまれたが、日本の文化発展や歴史、宗教生活と極めて密接に関連している〈京都〉の名称は、無意味な地理概念の表記に変更されるには、あまりにも国民の心の奥深くに根付いていた。

古い京都

〈京都〉は日本のローマであり、古代世界のローマすなわち〈都〉である。同時に信仰世界のローマ、仏教界の砦でもある。〈京都〉はその政治的重要性を失った後に、廃墟となった自身を嘆くことはなかった。勇ましく首を挙げ、歴史ある古典学問の財宝を守り、他所では急速に失われようとしているその財宝を常に維持し続けた。同時に近代教育集団の最先端で躊躇なく戦い、優遇された妹のあとを追うのではなく、並んで歩くことを決めた。古くから名があり親しまれている工芸分野の絹織物、磁器、青銅工芸品を躍進させることで、市民の幸福度を高め、生活財源を補填しようとした。天皇の廷臣や貴族が多数転居し、国家行政が移転したあとで、財源の枯渇は避けられなかったからである。

西京

〈京都〉または〈西京〉、すなわち西の首都（北緯 35 度、東経 135 度 30 分）は〈鴨川〉の流れる〈山城〉国にある。〈東京〉からは南西に 530km、同名の入江をもつ〈大坂〉からは東に 52km 離れて、〈大坂〉とは航行可能な〈淀川〉でつながっている。12km 南西には大きな内陸湖〈琵琶湖〉がある。〈京都〉をつくったのは第 50 代〈帝〉〈桓武〉天皇（782-805 年、皇紀 1442-1465 年）であり、延暦 13 年（794 年、皇紀 1454 年）から 1868 年まで 72 人の〈帝〉の居城となった。それ以前に決まった居城はなく、各天皇が状況に応じて居城を選んでいたのだが、多くの天皇は宮廷の場所を何度か移転させてきた。この新しい都は秩序ある計画に従って設置された。東西の幅は 1570 丈（4867m）[103] で、南北の長さは 1553 丈（4814m）、1216 戸の家が建ち、左側にある〈左京〉区と右側にある〈右京〉区の二地区に分かれている。天皇は 12 の門をもつ宮殿〈平安城〉を建設したが、平和の家を意味するこの名称は本来は都に与えられていたもの

だった。しかしこの〈平安城〉の名称は、すぐに庶民的な呼称である〈帝〉すなわち「天皇の都」にとってかわられた。同義の漢字〈京都〉が一般に使用されるようになったのである。現在の〈京都〉は、当時と同様に「上にある町」を意味する北側の〈上京〉と「下にある町」を意味する南側の〈下京〉の二地区に分けられている。〈京都府〉の行政府は、〈織田信長〉[104]によって戦国時代の1568年（1228）に築城された〈二条城〉内に設置された。だが天皇の従者が東京に転居して以降、〈京都〉の人口は目に見えて減少した。1877年1月の人口調査によると、人口は238660人、世帯数は63217戸しかない。

〈京都〉は常に古典文学の育成地であった。そして国を支配する二大宗教、すなわち〈帝〉一族を日本の国家神〈神〉の末裔と認める〈神道〉と仏教という階級組織の中心地だったのであり、現在もそうである。豊かな森林の中にある無数の神道の神殿〈宮〉や〈寺〉（仏教寺院であり僧院）の多くは、古代から名を馳せるものばかりで、この都を飾りたてている。寺院、〈帝〉の居城、〈大名屋敷〉、そして〈帝〉の千年の都を取り囲んできた貴族の邸宅がどれくらいあったのかは、1864年8月20日から22日にかけて京都が長州藩諸隊に包囲され破壊されたときの被害件数から判断できるだろう。この時には18の宮殿、44の大規模な〈屋敷〉と640の小規模な〈屋敷〉、60の〈宮〉と115の〈寺院〉、811の通りと27400の個人住宅、400の物乞小屋、1つの〈穢多〉（ハンセン病患者）村、40の橋が火災によって、1216の耐火性倉庫〈蔵〉が大砲によって破壊されている。

現在の〈京都〉の興隆は、啓蒙教育と古典教育をうけた〈槇村正直知事〉の熱心な努力の賜物であるが、日本の新時代に捧げなければならなかった手痛い犠牲や困難な試練を経てのことである。この都は名誉ある過去の記憶を維持しながら、時代精神と様々な結果に門戸を開いた。歩み寄って援助してくれるものがあれば程よく習得し、近代学問と伝統工芸分野を同時に地元の人間と一緒に発展させようと試みた。国民学校の他に、ヨーロッパの言語や基礎学問を学ぶ男女共同の授業施設、医学学校と化学学校、ヨーロッパ製紙工場の設立、祖国の製造業と芸術の向上、天皇の居城〈御所〉で毎年三か月間開催される産業博覧会と多くの新製品、それらは永遠の若さを保つ千年都市の真剣な努力と力強い生命力によって生み出されたものである。新しい〈西京〉によって、古い〈京都〉の記憶が国民の心から失われませんように！

東京

新首都であり皇居のある町〈東京〉の歴史は300年に満たない。小さな漁村が16世紀末に〈家康〉によって〈江戸〉として拡張され、そこに将軍家の居住地ができて、急速に現在の規模にまで成長した。〈東京〉は〈江戸〉湾すなわち〈東京浦〉北西の〈武蔵〉国にある。〈東京湾〉には、北から南に流れているときには〈戸田川〉、河口では〈隅田川〉と呼ばれる川と、東の国境線となっている〈中川〉という二本の川が注がれている。その広大な地域は北緯35度32分から35度43分、東経139度43分から139度52分にあるが、日本人が東京に経線を引いて経度ゼロとすることもある。この町は六地区に分かれていて、明治10年1月（1877年1月）の人口調査によると、人口709682人、187631世帯が居住している。〈東京〉に行政府が移転したあとには、国家機関の〈太政官〉[105]並びに外務、内政、経済、軍事、海軍、教育、公務、司法、皇宮の九省からなる行政官庁の本拠地となった。さらには最高裁判所、大型兵舎、欧州を手本に欧州人教授が授業を行う大学、英国教員が専門技術を教える技術学校と科学技術学校、その他欧州の国際教育機関、病院、博物館、地方警察、鉄道、電信、郵便局が設置された。外国公使は独自のホテルを所有し、外国人には居留地（Consession）が融通された。〈上野〉[106]では1877年から国際産業博覧会が開催された。

〈武蔵〉国の複数地域を統治している〈東京府〉は、〈幸橋〉の城塁の中にある。町の中心部には、夏になると白い薔薇色の蓮の花で埋まる堀と城塁に囲まれた天皇の居城〈城〉と広い公園設備、庭園がある。道は広くまっすぐで、直角に交えて整備されている。たくさんの支流が町を横断しているので、橋も数多くかけられているが、日本の橋を意味する〈日本橋〉が中でも卓越している。200年以上前の第110代〈帝〉〈後光明天皇〉（1643-1654年、皇紀2304-2314年）[107]の時代に、第4代徳川将軍〈家綱〉（1651-1680年、皇紀2311-2340年）が手掛けた延長48211mの疎水〈玉川用水〉が、〈玉川〉の水をこの町に供給している。この川は〈東京〉の12km南で〈江戸〉湾に注がれている。この他に〈神田川〉と〈玉川〉からは、木製パイプの水道が町の様々な地域へ水を供給している。数多くの寺院、僧院、〈屋敷〉、古い時代に由来する公的建造物、公園や森については、これ以上触れるのはやめておこう。

横浜

日本に数ある町の中から、条約に従って外国に開港された港「条約港（Treaty

Ports)」と開かれた町〈開地〉について言及していこう。〈横浜〉（北緯 35 度 26 分 53 秒、東経 139 度 39 分）は〈東京〉の 32km 南に位置し、〈東京浦〉の西岸にある。〈神奈川県〉にある〈武蔵〉国の中心地で、現在は人口 64600 人、18190 世帯が居住している。25 年前には人口 1000 人に満たない、重要ではない村だった。現在では外国に開かれて最も栄えている港である。2000 人以上の欧州人と米国人が、外国人居留地（Settlement）に居住している。1853 年 7 月 7 日の夕方、〈横浜〉から数 km 離れた〈浦賀〉沖に米国人指揮官ペリーが到着したことが、外国貿易に複数の港を開港する条約締結につながった。ペリーは日本の海域にわずか 10 日間しか滞在せず、7 月 17 日には書簡を残して立ち去った。だが翌年 2 月にはさらに強力な艦隊を引き連れて戻り、〈横浜〉沖に碇を下ろして、1854 年 5 月 8 日に日米条約を締結させている。それはまず〈蝦夷〉の〈函館〉と〈東海道〉にある〈伊豆〉国の〈下田〉を米国船に開港するという条約であった。しかし〈下田〉はすぐに地震と大潮によって破壊され、地面が岩だらけになって投錨地に適さなくなったため、新たな条約が締結されて、〈函館〉、〈長崎〉、〈横浜〉[108]、〈江戸〉の港が 1859 年 7 月 1 日に外国貿易に開港された。こうして〈横浜〉は豊かな町に発展し、外国人が好んで居住先に〈神奈川〉を選んだことから、新たな交易都市として急速に成長した。

〈横浜〉から 18km 南の〈相模〉国にあるのが、〈北条執権〉[109] と〈源〉将軍家と〈足利〉将軍家の古い居城が残る〈鎌倉〉だ。初代世襲制〈征夷大将軍〉〈頼朝〉が最初に居を構えた町であり、その 20 年前の 1063 年（皇紀 1723 年）には近隣の〈鶴岡〉村のはずれに、戦勝記念として軍神〈八幡〉の神殿を建立している。その約 200 年後には、〈足利尊氏〉も同じことをした。〈東海道〉と交差する通りには、巨大な〈大仏〉を祀った有名な〈仏陀〉寺院が建立されている。

大坂

〈大坂〉（北緯 34 度 31 分、東経 135 度 16 分）は畿内の〈摂津〉国にあり、〈東京〉から 574.5km 南西、〈京都〉からは 52km 南西に位置している。多くの支流や運河をもつ〈淀川〉河口の左岸、瀬戸内海に面した〈大坂〉湾にある町である。人口は 272000 人、78790 世帯が居住し、〈畿内〉の七地域を統治して、第三の〈府〉の地位にある。1867 年からは〈開地〉として外国人に開放されている。〈淀川〉の右岸には、天皇の造幣局がある。今日の〈大坂〉の場所に、初代〈帝〉の〈神武天皇〉が軍を率いて上

陸した。古い年代記〈古事記〉が語るところによると、〈帝〉は〈九州〉の〈霧島〉からの移動中、巨大蜘蛛の姿をした邪悪な魔物に襲撃されたが、その危険に満ちた困難な戦いに勝利したのだという。〈帝〉は最初に〈九州〉の〈豊前〉国にある〈宇佐〉に行き、それから〈岡田〉へ向かい、瀬戸内海の〈周防灘〉を航行して〈本土〉の〈安芸〉国へ移動し、そこに宮殿を建てて7年間暮らした。その後は陸地づたいに西へ移動して、〈備前〉国で8年間暮らした。そこから再び瀬戸内海を西に航行した。危険な嵐と高波によって上陸は困難を極めたが、〈帝〉は克服して上陸し、この土地を〈ナミハヤ〉と名付けた。のちに〈ナニワ〉となったが、この言葉は文学において〈大坂〉の意味でよく用いられている。〈大坂〉はこれまで二度、宗教戦争の血なまぐさい舞台となった。イエズス会に好意的な〈信長〉将軍による1580年（皇紀2240年）の仏教徒迫害と、〈家康〉将軍による1615年（皇紀2275年）のキリスト教徒虐殺である。

1867年に外国交易に開かれた港町〈神戸〉は、〈東京〉から607km西、〈大坂〉から36km西に位置し、〈淡路島〉の対岸、瀬戸内海の北岸にある町である。〈摂津〉国の〈兵庫県〉に属し、〈兵庫〉の町[110]とは山水が流れる幅広い川床で隔たれている。人口40700人、14070世帯が居住し、ドイツ人とイギリス人を中心に約400人の外国人が同盟（Bund）または租借地（Concession）と呼ばれる外国人居留地に住んでいる。

〈奈良〉には、〈京都〉に都が置かれる前、768年から782年（皇紀1368-1442年）にかけて〈帝〉の古い居城があった。〈大仏〉とその寺院、森、〈帝〉の墓所が有名で、〈大坂〉から32.5km東の〈大和〉国にある。

〈新潟〉は、1867年に外国人に開港された。〈東京〉から357.5km北に位置し、日本海に注ぐ〈信濃川〉の河口にある。〈北陸道〉の〈越後〉国に属していて、〈新潟県〉の首都である。人口23160人、7850世帯が居住している。

長崎

〈九州〉島の〈備前〉国〈長崎県〉に属している〈長崎〉は、首都〈東京〉から1366km南西に位置し、人口29700人、6660世帯が居住している。大きな山で馬蹄形に囲まれている卓越した港が、200年以上前にオランダと中国との交易に開かれていた。オランダ人は毎年船一隻に限定されていたという。この港にある小さな扇形をした島〈出島〉[111]が、外国人の滞在に融通されていた。この島で約20人の外国人が囚人同様に、日本人監視役の疑い深い視線に囲まれて暮らしていたのである。幅の狭

い石橋が島と町をつなぎ、橋の袂に固定された見張小屋には兵士が昼夜常駐していた。その向かいには頑丈な水門が二つ港に向けて設置されていた。水門は物資の積み下ろしの時だけ監視のもとに開閉されるが、それ以外は鍵をかけられたままだった。上部に二列の鉄棘が固定されている高い壁がぐるりと居住地の陸地側を取り囲んでいた。居住地には島の全長（250m）を貫く中央通が通っていて、オランダ人住宅と倉庫が並んでいた。この中央通と並行に、監視人住宅と小さな庭の裏の壁沿いにも小道が伸びていた。

この島の最大横幅は 100m に満たない。港の壁から少し離れた海中には 13 本の杭がしっかりと固定され、船の接近やオランダ人との接触はいかなる理由があっても厳重な罰則を持って禁ずると書かれた警告板が打ち付けられていた。橋の陸地側にも警告板が設置されていて、これによると売春婦と〈高野〉山[112]の托鉢僧という例外を除いて、いかなるものの出入りも禁じられていた。ただ出島で働く役人だけが、町との往来を監視していた。年一回の入港を許可されていたのはオランダ船一隻だけだが、それも故郷から直接やってくるのではなく、オランダ領インドを経由して日欧貿易をするためにやってきていた。このような屈辱的環境に、自由な人間が自ら望んで身を置いていたのだ！だが 1859 年 7 月 1 日以降、〈長崎〉港は条約に基づいた 10 里（40km）の交流半径であらゆる国に開港されることになった。

〈長崎〉湾には、森林に覆われた小さな島「はりつけの山」がある。その切り立った岩壁から、1637 年に数千人の日本人キリスト教徒が海に突き落とされた。ある解釈を試みるとするなら、そこでは「殉教者の死」が起こったのだ。だが実際のところ、それは信仰に忠実であるかどうかの確認ではなく、〈肥前〉国の〈島原〉でイエズス会宣教師に先導されて国家政府に立ち向かったキリスト教徒の蜂起に対する残酷な刑罰であった。徳川幕府の第三代将軍〈家光〉（1623-1651 年、皇紀 2283-2311 年）の精鋭部隊に二か月間も抵抗していた反逆者が〈島原〉で制圧されたあと、この「はりつけの山」で悲劇の幕は閉じられた。イエズス会の報告によれば、この反乱で 37000 人のキリスト教徒が絶命したという。その他多くが他国に追放され、多くが台湾に逃亡した。イエズス会は日本国から追放されて、既存の法への干渉と陰謀を恐れた日本は、諸外国に対して鍵をかけた。ただオランダ人だけが、先述の制約下で〈出島〉に滞在することを許されたのである。

〈蝦夷〉にある〈函館〉港は、1859 年に外国船に開港された。

北海道

〈北海道〉または北部沿岸道には、〈蝦夷〉島と〈千島〉列島が含まれる。〈北海道〉の面積は 58924.8 ㎡で、東西方向の最大幅直径は 643km、南北の直径は 482km、1877 年 1 月の人口調査結果によると人口 146615 人、34167 世帯が居住している。〈北海道〉は 1879 年 7 月まで 11 地区に分けられていて、千島列島を含めてひとつの国を構成していた。現在では〈北海道〉の島群全体が二つの都市区分〈区〉と 84 の地方区分〈郡〉に分けられている。だがこのスケッチでは、場所の説明をより適切に行うために、古い地域区分で説明を続けていくことにしよう。

〈蝦夷〉の従来の住民、日本人の進出で〈本土〉から追放された〈アイヌ〉または〈蝦夷〉は、主に沿岸で狩猟や漁獲をしながら生活を営んでいる。〈蝦夷〉島は、深く切り込んだ谷がある大きな火山と、濃い森林の台地からなりたっている。沿岸の大部分は岩礁による断崖で、非常に危険である。この島はまだ十分に調査研究されていない。それゆえに私たちの山岳学の知識も不足していて、あてにならない。

最も標高の高い山は火口湖をもつ休火山の〈尻別山〉[113] で、標高は 2300m から 2500m、〈後方〉国と〈胆振〉国にまたがる同名の山塊と交じわっている。最南端の〈渡島〉国にある火山性の入江の西岸には、「熊の山」を意味する〈熊ヶ岳〉[114] の急勾配な円錐火山がそびえている。この並外れて急勾配な山は、沿岸にある〈馬立場〉村の東側からしか登ることができない。旅仲間の H. リッター博士（元東京大学教授、化学と物理学）と私は 1874 年 8 月にそこから特に苦労することなく火口まで達した。本来は火口であった場所から西と北に向かって登っていくと、そこには垂直な壁、大部分がほぼ突き立っているだけの壁がそびえていた。東側の岩壁は崩壊し、落石のあるガレ場が海まで伸びていて、私たちは山頂に達することができなかった。リッター博士はアネロイド気圧計を用いて、南西側で到達した最高地点を標高 1000m と測定した。私たちの観察位置からほぼ垂直に落ちている深い峡谷を挟んで西側に、オベリスクに似た先端がそびえていたが、私の友人はそれを私たちが昇った場所より 120m から 140m 高い山頂であると判断した。古い火口と、おそらく最近の爆発でできた深さ約 60m の新しい火口の陥没からは、温水が騒々しく噴き出て白煙をあげていた。火口の周辺には、硫黄と燐酸の泥質土が沈殿していた。山の北側斜面は〈椹〉Ratinospora pisifera で覆われていた。この火山の最新の噴火は、手元の案内書の説明によると 1860 年らしいが、その噴火では周辺集落の住民約 1000 人が落命したという。

〈蝦夷〉には他にもまだ活火山がある。〈北見〉国と〈根室〉国の境界にあり〈アイヌ〉には〈イタチベオニ〉と呼ばれている〈硫黄山〉[115]、〈後志〉国にある〈イワスノボリ〉または〈イワナイノボリ〉[116]、〈胆振〉国にある〈樽前岳〉[117]、〈登別岳〉[118]、すり鉢型をした〈有珠岳〉[119]、そして〈渡島〉国にある「手の山」という意味の〈恵山〉[120]。〈釧路〉にある二つ並んだ円錐火山は、「鉄瓶」を意味する〈雄阿寒〉と〈雌阿寒〉[121]で、その片方が活火山である。同国の〈白湯山〉[122]西部では間欠泉が噴出しているらしい。〈渡島〉[123]は同名の〈渡島〉国の西岸にある島で、〈蝦夷〉北端の〈宗谷〉岬の南西にある〈利尻〉島は活火山である。千島列島にも八ないし九つの活火山が確認されているようである。

〈蝦夷〉の抱負な水量は多くの湖、滝、激流をうみだし、その流れが川に合流して、海岸の河口で立派な川幅をなす。この島を代表する川を二本挙げよう。〈石狩川〉[124]は同名国の〈石狩〉山に水源を発していて、最初に南へ、次に西へと流れ、日本海へと注いでいる。河口の川幅は12kmにも達していて、延長は670kmである。〈大津川〉[125]は、〈十勝〉山の二つの湖から流れてくるほぼ同じ長さの二本の川からできている。そのうちのひとつ〈十勝川〉は11mの川幅で、南に流れて230mの川に合流する。こうしてできた〈大津川〉は延長176kmで、〈大津村〉から太平洋に注がれている。

〈函館〉は〈蝦夷〉の首都で、〈東京〉（北緯41度46分、東経146度46分39秒）の北884kmにあり、この島を〈本土〉と分ける〈津軽〉海峡または〈松前〉海峡の同名の湾に面している。箱型旅行鞄の形をした低い前山の上にあることから、その風変りな姿がこの町の名となった。町には人口28900人、6510世帯が居住している。港は安政6年（1859年）に外国貿易に開港されて以来、条約に基づいた条約港（Treaty Ports）のひとつとなった。この町には〈開拓地〉の支局「開拓使」があり、〈北海道〉全体を管理して、アメリカ人教員が指導する農業学校と連携させ、日本人入植者による〈蝦夷〉開拓を統括している。開拓使の本拠地は〈札幌〉にあるが、この新設された都市〈札幌〉は〈函館〉より225km北、〈東京〉より1097km北に位置している。原生林を伐採した〈石狩〉国の同名地区にあり、現在は人口2000人、824世帯が居住している。〈開拓地〉支局はこの他に、〈札幌〉の東547kmの同名国にある〈根室〉と、〈札幌〉の北133kmの〈天塩〉国にある〈留萌〉[126]にも設置されている。

〈千島〉列島は北緯44度から51度の間にあり、〈蝦夷〉の最東端〈知床〉岬からカ

ムチャッカ最南端のロパトカ岬まで、南西から北東方向に向かって伸びている。この諸島最大の島は、従来日本に属していた〈国後〉島、〈択捉〉島、〈得撫〉島である。〈得撫〉島より北にある〈千島〉列島は、ロシアに割譲されていた〈樺太〉島と引き換えに 1875 年 5 月になってようやく獲得された。

琉球諸島

〈琉球〉諸島は北緯 26 度から 28 度、東経 128 度、〈九州〉の〈薩摩〉国から 547km 南西に位置し、〈西海道〉または〈九州〉南の沿岸道に〈琉球〉国を形成している。この諸島の最南端には〈宮古〉島、〈八重山〉島などがあり、〈先島〉の名で呼ばれている。この諸島の住民（人口 167400 人、27170 世帯）は日本人に類似した習慣、言語、文字をもつ。1879 年 4 月まで〈帝〉の臣下であった〈尚泰王〉[127] と中国政府に統治されていたが、王は現在廃位して日本の年金で暮らしている。これまで〈藩〉であった諸島は、現在は完全に日本国に併合されて、〈県令〉に基づいて第 36 番目の新しい〈県〉になっている。土地は山岳地帯であり、〈諏訪瀬島〉と〈鳥島〉の二島が活火山である。気候は温暖で、霜や雪は見られない。主要の島である〈沖縄島〉は南北の延長が 108.5km、東西の幅が 40km である。この島の首都であり、諸島全体の首都でもあるのが〈首里〉で、そこには人口 45000 人、3460 世帯が居住している。

小笠原諸島

〈小笠原〉諸島は、文禄年間（1592-1596 年、皇紀 2252-2256 年）に日本人の〈小笠原貞頼〉に発見されて以来、その名がついた。北緯 26 度 30 分、東経 141 度 59 分の太平洋上にあり、〈東海道〉にある〈伊豆〉国の〈八丈〉島から 72km 南に位置している。この諸島に浮かぶ二つの大きな島は、〈父〉島と〈母〉島という両親島である。その周囲には小さな〈兄〉島、〈弟〉島、〈姉〉島、〈妹〉島が浮かび、まさしく家族によって囲まれている。これらの島は、1876 年以降は日本の役人によって管理されている。

注

1 Ferdinand Adalbert Junker von Langegg: *Mizuho-gusa, Segenbringende Reisähren: Nationalroman und Schilderungen aus Japan*, Volume2. Leipzig, 1880. S.121-187.

2　イサーク・ティツィンク（1745-1812 年）はオランダ出身の外科医。東インド会社の最高職位を歴任し、1779 年から 1784 年にかけて三度、鎖国統制下の長崎出島にオランダ商館長として滞在した。日本の社会や文化に深い関心を寄せて、帰国後には日本に関する著作を数多く執筆している。

3　日本アジア協会は、1872 年に横浜に設立された日本最古の日本アジア研究に関する学術団体。

4　D.H. マーシャルは、帝国大学工科大学前身の工部省工学寮にイギリス人数学教師として 1873 年に招聘されている。

5　ヨハネス・ユスティス・ライン（1853-1918 年）はプロイセン王国政府の命をうけて 1874 年に来日。日本各地を旅行して主に工芸品の調査を行う。1876 年のドイツ帰国後はマールブルク大学地理学教授に就任している。

6　本論には、ここに言及された下線は引かれていない。

7　〈箱根山〉は神奈川県と静岡県にまたがる複成火山。最高峰の神山の標高は 1437m。〈天城山〉は静岡県伊豆半島中央部に位置し、万三郎岳、万次郎岳、遠笠岳の三連山を成す。最高峰の万三郎岳の標高は 1406m。

8　〈剣ヶ峰〉は富士山の最高峰で、日本最高の標高 3776m を記録している。〈駒ヶ岳〉は〈剣ヶ峰〉同様に、富士山頂で噴火口を形成している富士八峰のひとつで、標高は 3718m。〈宝永山〉は日本最大の側火山で、標高 2693m。

9　〈ホウレイサン〉とあるが、ここは文脈から〈宝永山〉のことか。

10　ロバート・スチュワートは、マーシャル同様に技師として工部省工学寮に招聘され、1872 年暮れに来日している。宝永地震（1707 年）と安政東海地震（1854 年）で津波の被害にあった〈沼津〉の町については、ヨンケルの注を参照：〈沼津〉は太平洋沿岸の〈東海道〉の〈甲斐〉国にあり、軍備に力を入れている。この町の「兵学校」は、将軍時代から欧州式授業を導入していた。

11　ヨンケルは〈タガモミ〉としているが、学名と分布から「針樅」のことか。

12　ヨンケルは「白檜曽」の別名〈シラベ〉と紹介している。

13　ヨンケルは〈ヤマハリ〉としているが、学名から「山榛ノ木」のことか。

14　〈ズミ〉はバラ科リンゴ属で、染料となることから「染み」の名がついたともいわれる。ここの学名は、このズミに非常に類似している「梨」を指している。

15　ヨンケルが〈ニクジ〉と紹介している薬用効果のある高山植物は、「肉従蓉」（別

名ホンオニク）のことか。肉従蓉は中国最古の薬学書『神農本草経』にも掲載されている滋養強壮剤。

16 現在の代表的な富士登山ルートといえば、吉田、須走、御殿場、富士宮の 4 ルート。ヨンケルの挙げる〈須山〉は古くから親しまれた登山道だが、明治 16 年に御殿場口登山道が開通してからは「御殿場登山道」と合流した。ここの〈丸山〉は富士山南側から山頂を目指す富士宮ルートのことか。

17 〈秋葉山〉は静岡県にある山で、標高 866m。〈八ヶ岳〉は山梨県と長野県にまたがる火山群で、最高峰の赤岳は標高 2899m。

18 ジョン・ミルトン（1608-1674）はイングランドの詩人。ここでは代表作の長編叙事詩『失楽園』7 巻の一節が引用されている。訳は平井訳を引用した。平井正穂訳『失楽園（下）』岩波書店、1981 年

19 ヨンケルは〈コメイ〉天皇としているが、ここは第七代「孝霊天皇」か。

20 ヨンケルは〈日本史〉としているが、富士噴火に触れていることから、ここは平安時代の歴史書『日本紀略』か。

21 1707 年（宝永 4 年）の宝永大噴火について、ヨンケルは注に「この〈富士山〉の最新噴火のときに、エーゲ海のサントリーニ湾でも海中噴火がおこって、いわゆる黒い島が誕生した」と追記している。文中の〈須本岳〉については詳細不明。

22 〈大室山〉は富士山の北西麓にある側火山のひとつで、標高 1468m。〈二ツ塚〉は富士山の南斜面にある宝永山の南東斜面にもりあがっている山で、標高 1804m。上二ツ塚（標高 1929m）とあわせて双子山と呼ばれている。

23 〈冠ヶ岳〉は神奈川県にある火山で、標高 1409m。〈大地獄〉は「大涌谷」の旧名称。1876 年の明治天皇の行幸の前に改称された。〈早雲山〉は神奈川県足柄下郡箱根町強羅にある山の総称で、標高 1244m。

24 ヨンケルは〈ネバラ〉湖、〈サイ〉湖、〈ショトツ〉湖としているが、山頂付近の富士五湖と考えると、ここは「本栖湖」、「西湖」、「精進湖」か。

25 〈御嶽山〉は長野県と岐阜県にまたがる複合成層火山で、標高 3067m。

26 ここの〈白根山〉はいわゆる「日光白根山」のことで、栃木県と群馬県の堺にある成層火山、標高 2578m。〈浅間山〉は長野県と群馬県の堺にある成層火山で、標高 2568m。白根山の横にある〈前白根山〉は標高 2373m。

27 ヨンケルは注で「（同年の）1872 年 4 月には、ヴェスヴィオ火山も噴火した」と指

摘しているが、この爆発噴火は 1822 年か。

28 ヨンケルは〈コウシケノイケ〉の名をあげて「孔子の生徒の沼」の意と説明しているが、ここは「五色沼」のことか。五色沼は白根山と前白根山の間の窪地にある堰止湖で、登山道より見下ろすと五色に見えることからその名がついた。

29 ヨンケルは〈ユモト〉湖としているが、ここは日光西部にある水面標高 1475m の「湯ノ湖」か。〈男体山〉は栃木県日光市にある成層火山で、標高 2486m。〈中禅寺湖〉は男体山の噴火でできた堰止湖で、水面標高は 1269m。

30 日光〈湯元〉温泉は、栃木県日光市奥日光の湯ノ湖畔にあり、奈良時代に勝道上人が発見したと伝えられる。冬期の寒さが厳しく、夏期の湯治場として賑わった。

31 〈華厳ノ滝〉の落差は 97m。

32 〈霧降ノ滝〉は栃木県日光市の利根川水系霧降川にある滝。水が落下する際に霧のように飛び散ることからその名がついた。落差 75m、滝幅 3m から 15m。

33 〈日光〉の語義については、ヨンケルの注を参照:〈日光〉の〈日〉は光や太陽、〈光〉は光り輝く、照らすという意味で、〈明〉の字と組み合わせると、「聖なる光」の意味になる。カトリックの聖人同様に、仏陀や仏教の聖人の頭部は後光で囲まれている。

34 〈日光〉の自然については、ヨンケルの注を参照：引用した〈日光〉の自然美は有名な〈景〉（風景画）に描かれたり、歌に繰り返し詠まれている。日本の地方の多くは地形の魅力で国民的名声を得ている。例えば〈敦賀〉は〈十景〉（10 枚の絵）で、〈大津〉は〈八景〉（8 枚の絵）で多くの称賛を浴び、広く名を知られた。

35 〈日光権現〉については、ヨンケルの注を参照:〈権現〉は死後に神格化された英雄、敬虔な僧侶、有名人のことで、仏教徒はこの名を用いることで死者を崇拝してきた。その多くは〈神道〉から仏教へ移行している。〈権現〉という言葉は、実際は死後に与えられる〈送り名〉または〈戒名〉である。〈権現〉には特別な守護力や奇跡をおこす力があり、聖人のいるカトリック教会のように、祈祷所や寺院は多くの信徒が訪れる巡礼場所となっている。〈権現〉は仏教の聖人または守護聖人なのである。〈京都〉の〈愛宕〉神社と〈東京〉の〈愛宕〉神社は巡礼地であり、朝鮮からの仏教伝道師である〈日羅〉、〈伊弉冉〉、〈火産霊〉が〈愛宕権現〉の名で火災の危険から信者を守り、幸福をもたらす守護神として崇拝されてきた。〈日羅〉上人は、第 29 代〈帝〉の〈欽明天皇〉（540-571 年、皇紀 1200-1231 年）治下の

日本で仏教を積極的に広めた〈厩戸皇子〉の師にあたる。〈厩戸皇子〉は徳の高い息子という意味の〈聖徳太子〉の〈送り名〉を得た。僧侶身分ではないのに神格化された唯一の俗人である。あらゆる党派から崇拝されたため、冠を被って腰かけている少年か成人男性の姿の肖像画は、どこの仏教寺院でも目にすることができる。炎の守護神は、〈北陸道〉の〈越中〉国にある〈秋葉山〉の〈鳳来寺〉他、多くの礼拝所で崇拝されている。

36 〈勝道〉上人については、ヨンケルの注を参照：〈勝道〉は、〈いろは〉を考案した〈真言宗〉の創始者〈弘法大師〉の弟子で、835 年（皇紀 1495 年）に没した。キリスト教同様に、仏教の伝道師は国家神を名称変更することでその教義の聖人に変え、古い宗教祭を教会祝祭日に変更するようなことをしばしば強要した。

37 〈浅間山大変略記〉には、1783 年（天明 3 年）7 月の浅間山の大噴火の様子や周辺地域の被害状況が記録されている。萩原進編『浅間山天明噴火集成　Ⅳ　記録偏（三）』群馬県文化事業振興会、1993 年

38 ヨンケルは〈オユワケ〉としているが、ここは〈追分〉を指すか。「追分宿」は北陸道と中山道の分岐点にあたる宿場町で、多くの旅籠屋や茶屋で栄えた。ここにある浅間山神社は天明の大飢饉（1783 年）以来、山を鎮める祈願の社となっている。境内には松尾芭蕉の句「ふきとばす石も浅間の野分かな」が刻まれた巨石がある。

39 1783 年に世界中で多発した地震について、ヨンケルは注で追記している：同年（イタリア半島南端）カラブリアで激しい地震がおきた。5 月にはデンマーク沿岸で新島が誕生したが、翌年には再び消滅した。6 月にはアイスランドのスカプタル・ヨークルで恐ろしい噴火が起こり、翌年 1 月にはメキシコのグアナファトで激しい地震と地下からの轟きが起こった。メキシコのオアハカでも激しい地震が起こった。

40 〈血ノ池〉と〈血ノ滝〉（赤滝）は、追分から石尊山に向かう登山道にある。

41 ここの〈白根サン〉は「草津白根山」のことで、標高は 2130m。山頂付近には火口湖が複数集まり、湯釜、水釜、涸釜などと呼ばれている。最大の湯釜は直径 300m でエメラルドグリーンの湖水を湛え、沿岸や湖底には硫黄が沈殿している。

42 〈巌鷲山〉は「岩手山」の別名。「イワワシ山」が岩手の音読み「ガンシュ」に似ていることから転訛したとの説がある。標高 2037m の成層火山。

43 ヨンケルは〈ニニシ〉としているが、ここは焼き走り溶岩流で有名な登山道がある八幡平市「西根」地区のことか。

44 〈恐山〉は青森県下北半島の活火山で、最高峰は標高 878m の釜臥山。〈岩木山〉は弘前市にある成層火山で、標高 1625m。津軽富士と呼ばれる。

45 〈鳥海山〉は秋田県と山形県の県境にまたがる成層火山で、標高 2236m。出羽富士と呼ばれる。

46 〈ゲッサン〉、〈イドヤマ〉としているが、ここは文脈から山形県中央部にある〈月山〉（標高 1984m）と山形県、新潟県、福島県にまたがる「飯豊山」（標高 2105m）のことか。〈磐梯山〉（標高 1816m）は福島県にある成層火山で、別名が会津富士。

47 若松城の南東約 3 ㎞のところに、会津藩の湯治場として栄えた「東山温泉」（会津若松市東山湯本）がある。〈ユモト〉はこの温泉を指すか。

48 ヨンケルは〈イガリガワ〉としているが、ここは那須温泉街を流れる那珂川水系の「苦戸川」か。〈那須岳〉は栃木県にある「茶臼岳」の別称で、標高は 1915m。

49 ヨンケルは「川の中」と書いて〈カワジュウ〉としているが、ここは那須温泉「鹿ノ湯」か。鹿ノ湯は負傷した鹿が傷を癒したという伝説に由来する温泉で、奈良時代から氏族が湯治に訪れている。

50 ヨンケルはここで〈タケヤマ〉としているが、1875 年に噴火した越後の火山は標高 2400m の「新潟焼山」である。〈妙高山〉は新潟妙高市にある成層火山で、標高 2454m。別名が越後富士。〈立山〉は立山連峰の主峰で、雄山、大汝山、富士ノ折立の三山からなる。最高峰の大汝山は標高 3015m。

51 〈白山〉は石川県と岐阜県にまたがる成層火山で、標高 2702m。白山の最新の噴火は 1659 年である。地質学者のライン教授は 1874 年に白山に登り、化石の調査を行っている。

52 〈大山〉は神奈川県にある標高 1252m の山。大噴火の記録はない。1853 年に大噴火があったのは「有珠火山」か。

53 〈大台ヶ原山〉は奈良県と三重県の県境にある標高 1695m の山。計測者に関しては詳細不明。

54 リチャード・ヘンリー・ブラントン（1841-1901 年）はスコットランド出身の灯台建設技師。1868 年から 1876 年まで日本に滞在し、日本各地の測量を行って海図や地図にその測量値を記録した。

55 奈良県南部にある〈大峰〉山脈の〈山上ヶ岳〉は修験道の山で、標高 1719m。〈吉野山〉は〈大峰〉山脈から吉野川まで続く尾根続きの山稜のこと。

56 滋賀県と京都府の県境にまたがる〈比叡山〉は標高 848m。織田信長による比叡山の焼き討ちが起こったのは 1571 年 9 月 30 日。

57 〈三原山〉は東京都大島町伊豆大島にある成層火山で、標高 758m。ヨンケルは注で、1777 年にシチリアで泥火山が激しく噴火したことを追記している。

58 ヨンケルは〈ハブ島〉としているが、伊豆諸島に〈ハブ島〉は存在しない。〈大島〉南西に浮かぶ「新島」には「羽布施浦海岸」があることから、この島を指すか。

59 〈西山〉または〈八丈富士〉は伊豆七島の最高峰で、標高 854m。ヨンケルは〈コシケミネ〉としているが、別名は〈甑峰〉か。この山の最新噴火は 1606 年。

60 〈三原山〉同様に、〈雄山〉は今なお活動している標高 775m の火山。〈三宅島〉の玄関口にあたる阿古地区には、ヤマブキ沢から流出した細長い溶岩流の上に建つ差出神社がある。

61 〈石槌山〉は四国山地西部にあり、標高 1982m。

62 〈阿蘇山〉は熊本県阿蘇地方にある活火山。1000m 級の山が連なり、最高峰の高岳の標高が 1592m。

63 〈雲仙岳〉は 20 以上の山が連なる長崎県島原半島の火山。最高峰の平成新山は標高 1483m。1792 年 2 月に普賢岳山頂から噴火し、同年 5 月の津波災害とあわせて 1 万 5 千人の死者行方不明者を出す大災害を引き起こした。さらにヨンケルは注で、コーカサス山脈北西にあるタマン半島の同年の火山活動を追記している。

64 ティツィンクは 1784 年に日本を離れたあと、1792 年までインドで東インド会社長官を務め、インドネシアに移動している。これはインドネシア時代の記録か。

65 ヨンケルは〈国大学校〉としているが、ここは文脈から明治初期に工部省が創設した技術者養成機関「工部大学校」か。工部大学校は 1873 年に開校し、1886 年には帝国大学工科大学となっている。

66 ヨンケルは〈オガタコリ〉としているが、文脈からここは「諸県郡」か。〈霧島山〉は宮崎県と鹿児島県にまたがる活火山群で、最高峰の韓国岳は標高 1700m。〈英彦山〉は福岡県と大分県にまたがる山で、標高は 1199m。

67 ニニギノミコトは天照大神の孫。天降して日向国の高千穂峰に至った。

68 〈嫗ヶ嶽〉は大分県、宮崎県、熊本県にまたがる「祖母山」の別称。標高は 1756m。〈鶴見岳〉は大分県にある活火山で、標高 1375m。〈開聞岳〉は鹿児島県にある火山で、標高 924m。またヨンケルは〈鶴見岳〉の地理説明に〈ウスガ

タケ〉を出しているが、これは文脈から阿蘇山を指すか。

69 〈桜島〉は鹿児島湾にある火山。〈桜島〉を構成している山の総称を〈御獄〉という。北岳、中岳、南岳の他に寄生火山が複数あるが、最高峰の北岳は標高 1117m。近年の大きな噴火は、安永大噴火（1779 年）と大正大噴火（1914 年）。

70 〈硫黄島〉は薩南諸島北部の火山島。主峰の硫黄岳は標高 703m で、常に噴煙をあげている。この島は平安時代末期から流刑地であった。

71 〈諏訪瀬島〉は鹿児島県トカラ列島に属する火山島。最高峰の御岳の標高は 796m。ヨンケルは〈鳥島〉としているが、ここは沖縄県唯一の活火山島「硫黄鳥島」を指す。標高 212m の火山島で、1959 年の噴火以降は住民の移住が続き、現在は無人島となっている。

72 ヨンケルの注を引用：長さがあるのは〈川〉で、幅があるのは湖または〈湖水〉。高度があるのは〈滝〉で、深さのあるのは湾、〈入海〉または〈内海〉。そこにある〈港〉については、日本の m 測定値に換算して示すことにする。

73 〈信濃川〉は新潟県と長野県を流れる一級河川で延長 367 ㎞。〈江ノ川〉は島根県と広島県を流れる一級河川の本流で延長 194 ㎞。三次市内を流れている〈江ノ川〉の支流は、馬洗川、西城川、神野瀬川である。ヨンケルは注で、〈江ノ川〉にあてる漢字を強い川を意味する〈ゴウガワ〉として説明している。

74 〈最上川〉は山形県を流れる一級河川の本流で延長 229 ㎞。

75 〈北上川〉は岩手県と宮城県を流れる一級河川で延長 249 ㎞。

76 ヨンケルは米を意味する〈ヨネガワ〉としているが、ここは文脈から「利根川」か。利根川は新潟県の大水上山を水源に関東地方を流れて太平洋に注ぐ日本最長の一級河川で、延長 322 ㎞。

77 〈天竜川〉は長野県、愛知県、静岡県を経て太平洋に注ぐ一級河川で、延長 213 ㎞。

78 〈木曽川〉は長野県、岐阜県、愛知県、三重県を経て伊勢湾に注ぐ一級河川で、延長 229 ㎞。〈筑摩〉は 1871 年に信濃国、飛騨国六県が統合して誕生するが、1876 年に信濃国が長野県に、飛騨国が岐阜県に合併されて廃止されている。

79 ヨンケルは注で、〈阿武隈川〉は「水の泡の川」の意味と説明している。〈阿武隈川〉は福島県と宮城県を流れる一級河川で、延長 239 ㎞。

80 ヨンケルは〈オガワ〉としているが、ここは静岡県の一級河川「大井川」か。大井川の延長は 168 ㎞。

81 〈富士川〉は長野県、山梨県、静岡県を流れる一級河川で、延長 128 ㎞。〈芦川〉についてはヨンケルの注を引用：〈芦川〉は葦の川という意味で、葦は山原に豊かな絨毯を作る。日本最古の植物の一種で、この国の創造神話に何度も言及されている。

82 〈淀川〉は琵琶湖から流れ出て、滋賀県、京都府、大阪府を流れる一級河川で、延長 75.1 ㎞。

83 ヨンケルの注では、葦の川を意味する〈ヨシガワ〉とあるが、ここは文脈から「吉野川」か。吉野川は高知県と徳島県を流れる一級河川で、延長 194 ㎞。

84 〈筑後川〉は阿蘇山を水源として九州北部を流れ、有明海に注ぐ一級河川で、延長 143 ㎞。

85 〈琵琶湖〉は滋賀県にある日本最大の淡水の構造湖で、周囲長 241 ㎞。

86 〈猪苗代湖〉は福島県の淡水湖で、周囲長 49 ㎞。

87 〈霞ヶ浦〉は茨城県にある日本第二位の大きさの海跡湖で、周囲長 249.5 ㎞。〈印旛沼〉は千葉県にある利根川水系の堰止湖で、周囲長 47.5 ㎞。

88 ヨンケルは〈ダイガガワ〉としているが、ここは文脈から「大谷川」か。大谷川は日光市を流れる一級河川で、延長 29.9 ㎞。〈中禅寺湖〉は栃木県日光市にある堰止湖で、周囲長 25 ㎞。

89 〈宍道湖〉は島根県にある海跡湖で、周囲長 47 ㎞。

90 ヨンケルは〈オサカガワ〉としているが、ここは文脈から「奥入瀬川」か。奥入瀬川は青森県を流れて太平洋に注がれる二級河川で、延長 70.7 ㎞。〈十和田湖〉は青森県と秋田県にまたがるカルデラ湖で、周囲長 46 ㎞。

91 〈八郎潟〉は男鹿半島の付け根に位置する海跡湖で、船越水道を通じて日本海とつながる。太平洋ではない。〈諏訪湖〉は長野県にある淡水湖で、周囲長 15.9 ㎞。

92 先祖から数世代を重ねる意味の〈ジュウダイ杉〉とヨンケルは説明しているが、この杉は 1661 年に〈芦ノ湖〉を訪問したケンペルも記録している「逆さ杉」か。〈芦ノ湖〉は神奈川県の箱根山にあるカルデラ湖で、周囲長 21.1 ㎞。

93 〈那智ノ滝〉は和歌山県那智川中流の滝で、落差 133m、滝幅 13m。

94 ヨンケルはここでは〈カシ〉山としているが、注で「樫の木の山」と説明しているため、ここは「厚樫山」のことか。また〈阿武隈〉の意味については、〈アブ〉も〈クマ〉も日本の騒がしい昆虫の「虻」を指すと説明し、同様に前出の〈オオ

タキ〉の別名〈オオクマタキ〉についても「虻の滝」と説明している。この滝は福島県阿武隈川流域の「大熊滝雄滝」のことか。大熊滝雄滝の落差は 50m。

95 〈龍門ノ滝〉は奈良県吉野郡にある紀ノ川水系の滝で、落差 28m。

96 〈鳴滝〉は徳島県にある勝浦川水系の滝で、落差 35m、滝幅 2m。

97 ヨンケルはここで〈カスシ〉温泉として、注では「沈殿する温泉」と説明しているが、「甲子温泉」のことか。

98 ヨンケルは〈イゴ〉国としているが、ここは文脈から「伊予国」か。

99 尋は結び目の単位で、5 フィートあるいは 5 尺が 155 センチになる。

100 ヨンケルは〈ハメダ〉としているが、ここは文脈から「亀田」郡か。

101 条約締結以前の外国人との関係に関して、ヨンケルは注に〈家康〉の法律第 95 条（訳者注：鎖国令のことか）を引用している：遠く離れた異国の島から外国人が船で日本沿岸にやってきたら、すぐにここ〈江戸〉に知らせなければならない。そして通訳の筆談で、来日目的を報告させるべきである。友好的に受け入れるか、厳しく拒絶すべきかはその目的による。いずれにしても見張りをつけて厳格に監視すべきであり、商取引は決して行ってはならない。

102 ペリーの来日時（1854 年）に幕府にモールス電信機が贈られて以来、しばらく電信は普及しなかったが、明治維新以降は全国各地に通信回線が敷設され、数年で国内に電報が普及した。長崎とウラジオストック間の海底ケーブルは 1871 年に敷設されている。ここに掲載された電信網の区間距離の詳細は不明。

103 日本の長さの単位については、ヨンケルの注を参照:丈は日本の長さの単位のこと。310 センチが 10 尺となる。111.60m の長さの尺（町）と混同してはいけない。ここで長さの単位について述べよう。測量単位としては、〈金〉製の物差し〈曲尺〉が 31 センチに値する。その他の単位としては、10 分の 1 尺すなわち 3.1 センチの〈寸〉、100 分の 1 尺すなわち 0.31 センチの〈分〉、1000 分の 1 尺すなわち 0.031 センチの〈厘〉がある。6 尺は 1 間で、これは日本の床マット〈畳〉の寸法にあたり、それを分配してかけた数値が建築現場の測量に利用されている。1 間は 186 センチで、60 間は 1 尺（町）すなわち 111.60m。36 町は 1 里で 4017.60m に相当する距離になる。すなわち 1 里（4014.60m）＝ 36 町、1 町（111.60m）＝ 60 間、1 間（186m）＝ 6 尺、1 尺（31 センチ）＝ 10 寸、1 寸（3.1 センチ）＝ 10 分、1 分（0.31 センチ）＝ 10 厘、1 厘＝ 0.031 センチ。この他の尺度としては、〈尋〉が

5 尺と同じで 155 センチ、〈丈〉は 10 尺と同じで 310 センチになる。東京の大工が利用している折りたたみ式の鉄製〈曲尺〉は正確に 0.305m を示している。

104 織田信長については、ヨンケルの注を参照：戦国時代、つまり足利幕府が 1573 年（皇紀 2233 年）に滅亡して 1603 年（皇紀 2263 年）に徳川幕府が設立されるまでは幕府が置かれることはなく、5 人の男性が順番に将軍権力を手にした。そのうち 3 人が日本で最も有名な将軍となった。〈織田信長〉（1573-1582 年、皇紀 2233-2242 年）、〈太閤様〉と呼ばれた〈豊臣秀吉〉（1586-1598 年、皇紀 2246-2258 年）、そして源氏の血を継承し、〈征夷大将軍〉の位を与えられた〈徳川家康〉である。

105 明治の〈太政官〉制は明治 2 年に発足、神祇官、太政官の下に、民部省、大蔵省、兵部省、刑部省、宮内省、外務省という二官六省制がとられた。内務省が設立されたのは明治 6 年以降である。

106 上野の寺については、ヨンケルの注を参照：〈上野〉の寺（寛永寺）は徳川歴代将軍 6 名の墓所。1868 年 7 月 4 日に最後の将軍徳川慶喜の信奉者が天皇軍と争った際に焼失した。同様に豪華であった〈芝〉の寺（増上寺）も徳川歴代将軍 6 名の墓所にあたるが、数年前に強盗にあって焼失。こうして〈東京〉は日本の素晴らしい寺を二つも失ったのである。この寺で有名なのは、〈譜代大名〉から寄贈された 200 の大きな石〈燈籠〉である。（〈譜代〉とは従者一族のことで、〈譜〉は楽譜または音符、〈代〉は名門または子孫を指す。この〈大名〉は〈徳川〉家直属の家臣で、〈家康〉に土地を封じられた将軍や将校であった）燈籠には各将軍の死後の名前〈戒名〉と寄贈者の名前が刻まれていた。その燈籠が二列に並び、芸術的彫刻と金箔で飾りたてられている寺門まで続いていた。この門を潜って寺庭に入ると、〈国主大名〉が寄贈した豪華な青銅製の燈籠が並んでいたが、これも日本で最も偉大な芸術作品に数えられていた。この他にも燈籠が並び、灰になってしまった〈芝〉の寺があった奥の庭まで続いていた。

107 ヨンケルは〈後光明天皇〉について、第 109 代天皇で在位 1644 年から 1654 年としているが、実際には 110 代天皇で在位 1643 年から 1654 年。

108 ヨンケルは「〈横浜〉の 5 ㎞北にある〈神奈川〉」と記述しているが、ここは文脈にあわせて、開港五大都市のひとつ〈横浜〉とした。

109 〈執権〉については、ヨンケルの注を参照：〈執権〉は古い言葉で最初の大臣のこと。1215 年から 1333 年（皇紀 1875-1993 年）にかけて幕府権力を掌握した北条家代々

君主がこの称号を用いた。いわゆる影の将軍の時代であり、あるときは〈藤原〉家から、あるときは天皇家の皇子から、多くの場合は素直で無力な道具である子供に〈北条執権〉が譲り渡されていった。最後の〈執権〉である〈北条高時〉は〈新田義貞〉に〈鎌倉〉の前で倒され、彼の一族は1333年（皇紀1993年）に死に絶えた。〈高時〉は戦場で〈切腹〉してその人生を終えた。〈執権〉は将軍に反対する見解を述べていたが、のちに〈帝〉に思い上がった意見をするようになった。

110 〈兵庫〉の町とは、神戸と対等に扱われていた港町「兵庫津」のことか。

111 〈出島〉はポルトガル人のキリスト教布教を防ぎ、ポルトガル人を隔離する目的で徳川幕府によって1636年に建造された人工島。東西の長さは約70m、北側約190m、南側233m。平戸のオランダ商館が出島に移されたあと、1641年から1859年までは、この出島が国際貿易の窓口となる。

112 ヨンケルは〈コフ〉山の托鉢僧としているが、ここは「高野聖」か。

113 〈尻別山〉は北海道喜茂別町、留寿都村、真狩村にまたがる火山で、標高は1107.27m。

114 〈熊ヶ岳〉は北海道上川郡東川町にある大雪山系の山で、標高2210m。〈馬立場〉については、ヨンケルの注を参照：〈馬立場〉は馬の休憩所の意味。〈馬〉は馬で、〈立場〉は馬を交換する停留所、郵便局。日本中至る所に駕籠舁と荷馬の交換所があり、通常は2里（803.5m）おきに設置されていた。山で大きく隔てられている村落や農家には相応の分配で設置された。この村はその停留所の名前を持つ。

115 〈硫黄山〉またはアトサヌプリは北海道弟子屈町にある火山で、標高512m。

116 〈イワスノボリ〉または〈イワナイノボリ〉とあるが、ここは文脈からアイヌ語で「硫黄の山」を意味するニセコ連峰の「イワオヌプリ」か。イワオヌプリは北海道虻田郡倶知安町と磯谷郡蘭越町にまたがる活火山で、標高1116m。

117 〈タニマタケ〉とあるが、ここは文脈から胆振国にある「樽前岳」か。樽前岳は北海道苫小牧市にある活火山で、標高は1041m。

118 〈ヌブリツダケ〉とあるが、ここは文脈から胆振国にある「登別岳」か。北海道白老郡と有珠郡にまたがる火山「オロフレ山」（標高1230.8m）の二等三角点名が登別岳。

119 すり鉢型をした〈ウスタケ〉とあるが、ここは文脈から胆振国にある「有珠山」か。有珠山は北海道洞爺湖の南にある活火山で、標高737m。

[120] 手の山を意味する〈テサン〉とあるが、ここは文脈から渡島半島の「恵山」か。恵山は北海道函館市にある活火山で、標高 618m。

[121] 鉄瓶を意味する〈オヤカン〉、〈メヤカン〉とあるが、これは釧路にある「雄阿寒岳」、「雌阿寒岳」か。雄阿寒岳は北海道釧路市にある火山で、標高 1370.5m。

[122] ヨンケルは間欠泉の出る山を釧路国の〈マシロ山〉としているが、ここは阿寒湖温泉の南側にある標高 950m の「白湯山」か。現在白湯山に間欠泉はでていないが、至る所に泥火山のボッケ（アイヌ語：煮え立つ場所）が見られ、冬になると湯気で真白になって、幻想的光景をうみだす。

[123] ヨンケルは〈渡島〉としているが、実際は〈渡島大島〉という無人島。1741 年に噴火して津波が発生し、対岸に 1467 人の死者を出した記録が残る。〈利尻島〉の利尻山は休火山で、火山活動の兆候はない。

[124] 〈石狩川〉は北海道中西部を流れて日本海に注ぐ一級河川で、延長 268 ㎞。

[125] 〈大津川〉と〈十勝川〉は昭和初期まで分かれていたが、治水改修で堤防を築き、浦幌十勝導水路を開削するために本流を支流に編入させた。現在では浦幌十勝川という延長 11 ㎞の一級河川となっている。

[126] ヨンケルは〈ルルマッペ〉としているが、ここは留萌（ルルモッペ）か。

[127] 〈尚泰王〉（1843-1901 年）は最後の琉球国王。1872 年以降は琉球藩王に封じて華族となるが、1879 年に沖縄県が設置されたあとは明治政府の命令で首里城を出て東京に転居した。

* 〈　〉はヨンケルがローマ字で表記した日本語の名詞。表記に誤りがあれば修正して、注に説明を加えています。ヨンケルの論考に見出しはなく、訳者が目次を参考にしながら追加しました。訳者が突き当たった種々の問題について京都府立医科大学の八木聖弥先生にはその都度ご教示頂きました。八木先生には心より感謝の意を表します。なお本稿に開示すべき利益相反関連事項はありません。